

第 6 6 回 定時社員総会資料

2 0 2 0 年 5 月 2 9 日

於 機械振興会館

一般社団法人 映像情報メディア学会

第66回定時社員総会プログラム

1. 開催日時
2020年5月29日（金） 15：00開会 機械振興会館6階D-1,2会議室
2. スケジュール
 - (1) 総会（15：00～15：35）
 - ① 会長挨拶
 - ② 開会の辞
※代議員数56名 定足数29名（定款第18条 代議員数の過半数）

出席者数	名	書面表決書提出者数	名	合計	名
------	---	-----------	---	----	---
 - ③ 2019年度事業報告の審議
 - ④ 2019年度決算報告の審議
 - ⑤ 2019年度監査結果報告
 - ⑥ 2020年度事業計画・予算の審議
 - ⑦ 2020年度役員改選選挙結果報告・承認
 - ⑧ 退任役員代表挨拶
 - ⑨ 退任役員に対する謝辞
 - (2) 臨時理事会（15：40～15：55）6D-1,2会議室
 - ① 役員担務の確認
 - ② 今後のスケジュールの確認
 - (3) 新年度役員担務の報告（16：00～）
 - (4) 新会長挨拶（16：05～）
 - (5) 閉会の辞（16：10～）

以上

2019年度事業報告

1. 総括（担当：石井総務理事）

本学会は、テレビ放送や通信ネットワーク等の放送通信の媒体、情報処理・伝送・撮像・記録・表示のハードウェア・ソフトウェアに関する技術、立体映像やバーチャルリアリティに関する技術、そして映像を中心としたコンテンツの生成と流通に関する学術振興並びに研究開発の発展に貢献する役割を担っています。その目的を達成するため、機関誌、論文集の刊行、年次大会や冬季大会、研究会、講演会等のさまざまな事業活動を行っています。これらの事業活動には、理事会のほか、専門の分野を担当する委員会を設置して学会活動の円滑な運営に努めてきました。

本年度は、2019年5月の総会において、下記の基本施策を設定し、学会活動を進めてきました。

- (1) 学会の活性化
- (2) 新分野の開拓
- (3) 広報活動と会員サービスの拡充

2019年度の終了を迎え、上記の各計画項目の達成状況は以下のようになりました。

<2019年度事業計画と達成状況>

(1) 学会の活性化

事業計画は「学会運営体制は、17名の理事を中心メンバーとした13の委員会を設置し、2018年度に取り纏めたアクションプランおよび申継事項をもとに、理事会と各委員会の情報共有を密に図りながら、2019年度の活動を進める。理事会では、委員会のアクションプランの中間・最終報告を通して施策の継続・終了判断を行い、PDCAを着実に実行する。」というものでした。13の委員会のうち時限研究会であった学会活性化委員会の残課題を長期計画検討委員会に移行するとともに、WebIT化委員会を広報委員会に統合しました。達成状況は以下のとおりです。

各委員会の運営には昨年に引き続きアクションプランを導入し、1年間の目標とスケジュールを明確にした上で、7月から事業活動を開始しました。目標には、理事会の議論で示された、数年の事業活動を通して積み上げられてきた学会の「活性化課題リスト」中の優先度の高い項目への対処が急務である、との意向も反映し、年間の活動計画に盛り込みました。活動状況は2月に中間報告、2020年4～5月に最終報告という形でその進捗と次年度への申し送り事項を整理して理事会に報告しました。

今年度の理事会は、開催場所として全10回の理事会のうち6回を放送局やメディア事業者、映像関連企業の施設を活用させて頂き、訪問先の最新の活動状況を紹介頂くなど、学会と関係機関との交流を一層深めることができました。また、今年度も副会長と総務担当理事による理事会前の議事進行打合せ（総務会）を実施し、理事会の効率的な運営を図りました。

学会予算は、年度当初の計画では約190万円の赤字予算でのスタートとなりましたが、2019年3月に頒布を開始した「超高精細・広色域HDR版標準動画像(Cシリーズ)」のテストチャートの売り上げが順調に推移したことなどから、最終的には黒字決算とすることができました。テストチャートは、次年度も収益の柱として見込まれるため、積極的に販売促進活動を進めるとともに、高フレームレート(8K120P, 240P等)を対象とする標準動画像Dシリーズの制作の検討も進めていきます。また、2012年度から開始した公益目的支出計画を2018年度に完了し、2019年9月に内閣府より完了確認書を受領しました。これに伴い、一般社団法人申請時(2012年)のテストチャート頒布事業に伴う間接経費(人件費、賃借料、リース料など)の配賦割合を見直し、頒布に伴う実作業時間を勘案したものとししました。この結果、人件費として計上してきた間接経費をテストチャート頒布事業に伴う時間割合に応じたその他収益の支出として繰り入れ、課税額を適切にすることができました。この他、収入増に向けた施策として研究会の参加費有償化を試行し、効果の検証を進めています。

学会の在り方や会員増強策については、長期計画検討委員会がリストアップしてきた、学会を継続していくための「活性化課題リスト」に基づき、各委員会活動を通してそれぞれの課題への取り組みを進めました。また、新たに開始した「準会員制度」を活用し、年次大会・冬季大会参加の78名が新会員となりました。その他の取り組みの進捗については、アクションプランの取り組み状況と併せて次章に記載いたしました。

本部役員と各支部との対話活動については、年次大会開催時の支部長会議のほか本部役員が各支部大会に参加して課題共有を行う施策を計画しました。残念ながら、多くの支部大会が計画された2020年4～5月期に、首都圏を中心とした新型コロナウイルス感染拡大の抑制対策に伴う緊急事態宣言の影響を受け、役員の支部大会参加は関西支部大会のみに留まりました。このような不測の事態でも本部と支部の対話活動が継続でき

るように、2020年度以降は支部役員が本部理事会に参加して連携強化を図る新たな施策を長期計画検討委員会が中心となって提案しました。

(2) 新分野の開拓

事業計画は「時代に相応しいトピカルなテーマに焦点をあて、新分野の開拓を進める。」というものでした。達成状況は以下のとおりです。

新分野の開拓については、年次大会や冬季大会においてトピカルテーマに焦点をあてた企画セッションやデモ展示、聴講無料の公開講演会を実施しました。年次大会（8/28（水）～30（金）、東京工業大学・大岡山キャンパス、参加 320 名）では、情報センシング研究委員会企画の「自動運転を支えるセンシング技術」と放送技術研究委員会企画の「地上デジタル放送による 4K8K 放送の研究動向」の 2 件を企画セッションとして、また、映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会企画の「AR・VR 最前線」を公開講演会として開催しました。また、冬季大会（12/12（木）、13（金）、電気通信大学、参加 347 名）では、スポーツ情報処理時限研究委員会企画の「スポーツ情報処理 2020 そして、これから!？」と放送技術研究委員会企画の「IP を用いた番組制作技術」および、実行委員会企画の「いよいよ始まる、5G（高速・大容量、低遅延、多接続）が拓く新たな世界」の 3 件のセッションを、さらに、デモ展示としてヒューマンインフォメーション研究委員会企画の「VR/AR を支える要素技術および応用技術」と 2018 年度各賞受賞企業の展示を開催し、多くの来場者を迎えて好評を博しました。

他学会との連携強化では、日本写真学会・日本印刷学会・日本画像学会・IS&T が共催、本学会・日本視覚学会・画像電子学会が協賛の国際会議 ICAI（International Conference on Advanced Imaging）2020（11/2（月）～6（金）、幕張メッセ）の実行委員会に参加し、実施に向けた準備を進めました。また、毎年、日本国内で米国 SID（Society for Information Display）と共催する国際会議 IDW（International Display Workshops）を開催しており、2019 年 11 月の札幌開催では国内外より、1,242 名もの参加者を集めました。このほか、電子情報通信学会・電気学会・情報処理学会・照明学会とは、学会運営の課題を共有する連絡協議会を年 2 回開催し、活発な情報交換を継続しています。

海外との連携強化では、韓国放送メディア技術学会（KIBME: Korean Institute of Broadcast and Media Engineers）から 2019 年 5 月に幹部が訪日して意見交換を行いました。KIBME とは、一昨年度からそれぞれの年次大会で相互に講師派遣などの交流活動を行ってきました。今年度は、8 月の本会年次大会において「KIBME SESSION」と題して、3 次元映像情報の取得や VR 技術などに関連した企画セッションを開催しました。また、11 月の KIBME FALL CONFERENCE 2019 には、本学会より講師派遣を行いました。KIBME とは今夏に締結した覚書に則って、今後も映像メディア技術の動向・展望についての意見交換を継続していきます。

(3) 広報活動と会員サービスの拡充

事業計画は「2018 年度に引き続き、ホームページの積極的な活用や技術報告のオンライン化、メーリングリストや各種 SNS を活用した会員サービスを継続するとともに、WebIT の活用による広報活動の充実を図り、サービスの一層の向上を目指した施策を進める。」というものでした。達成状況は以下のとおりです。

2019 年度は英語版ホームページについて、これまで一部のコンテンツのみ英語対応の掲載でしたが、日本語版コンテンツとほぼ同様の内容を掲載することで英語版コンテンツの充実を図りました。また、学会活動の案内などを中心に弊会発のメールマガジンを計 65 回発行し、会員サービスの充実に努めました。

4K・8K 機材展や Inter BEE（国際放送機器展）への出展や業界紙への広告出稿を通じた広報活動を展開しました。学会誌では、設立 20 周年を迎えたアントレプレナー研究委員会と連携した特集号や自動運転・コネクテッドカー技術、人工知能（AI）の応用技術、ライトフィールドの取得・再生技術、放送局におけるスポーツ中継技術や IP 化技術などの特集・企画記事を通じて、会員を含めた本学会誌をご利用の皆様に広く知見を公開しました。このほか、年次大会と冬季大会の会場で今年度フェロー認定された 9 名の方々を講師に招き、フェロー記念講演を実施しました。また、昨年度に引き続き開催した年次大会・冬季大会時の「技術交流会」には、若手研究者を中心に多くの大会参加者が集い、会員間の交流促進を図ることができました。

広報活動の一環として位置付ける創立 70 周年記念事業に向けて、記念事業 WG を設置することを 6 月理事会で決定し、副会長を主査とする WG の活動を開始しました。2020 年度の冬季大会は創立 70 周年記念大会として、新役員体制下で組織する実行委員会が担当しますが、大会期間中に開催する 70 周年記念事業の立案等は、本 WG が担当します。今年度の WG 活動では開催期間（12/22（火）～24（木））と会場（一橋講堂；都内千代田区）を決定し、12/23（水）午後に創立 70 周年記念講演会を開催することとしました。

以上の施策を通じて、2019 年度は学会の活性化と新分野の開拓、および会員サービスの充実を図ってきました。事業期間の最終四半期には、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、研究会活動などの一部事業に支障をきたしたのもございましたが、協賛団体各位と会員各位のご理解・ご協力のもと、今期の事業を遂行することができました。1 年の延期となった東京オリンピック・パラリンピックに向けて、映像情報メディア技術は更なる発展を遂げていくでしょう。引き続き本学会は、放送や通信を取り巻くこれらの技術分野の発展に貢献していきます。

2. アクションプランの設定内容と達成状況

2019 年度に設置された 13 の各委員会のアクションプランとその進捗・成果の概要を以下に示します。事業実施過程の委員会の再構成により、学会活性化委員会を長期計画検討委員会に、Web-IT 化委員会を広報委員会に統合したため、統合後の 11 の委員会のアクションプランの設定内容と達成状況を以下に示します。

① 広報委員会（担当：深澤企画担当理事）

広報活動として、昨年度同様、SNS（Facebook, twitter）とホームページ、メールマガジンが連携するシステムをベースに適宜情報発信を行いました。また Webzine、会誌ニュースと SNS との連携も行いました。今後も基本的に現状の運用体制の維持をベースとしつつ、他委員会と連携してさらなる改善に向けた検討を行うこととしました。業界展示会を通じた広報活動として、例年通り InterBEE2019 にて本学会ブースを設置し、本学会の PR に加えて標準動画像、三次元マルチチャンネル標準音源の PR を行いました。継続検討課題となっているマイページ機能については、費用が大きくなることから他学会の状況などを分析し導入の良否を判断していきたいと考えています。

② 年次・冬季大会実行委員会（担当：居相調査担当理事）

2019 年映像情報メディア学会年次大会は、8 月 28 日（水）～8 月 30 日（金）の 3 日間の日程で、東京工業大学大岡山キャンパスで開催されました。一般講演 33 セッション 130 件（特集テーマセッション 2 セッション 10 件含む）、招待講演 3 件、フェロー記念講演 5 件、公開講演会 1 セッション 5 件、企画講演 3 セッション 18 件で構成され、3 日間の延べ参加人数は 936 人と、ここ数年とほぼ同程度でした。

放送事業者および映像コンテンツという当学会の特長を活かした企画として、新 4K8K 衛星放送開始の後、研究開発が活発に進められている「地上デジタル放送による 4K・8K 放送の研究開発動向」や、公開講演会「AR・VR 最前線」といった放送ならびに映像表現に関する企画セッションを実施し、多くの方々に参加いただきました。新たな試みとして、公開講演会「AR・VR 最前線」ではデモンストレーションを交えたセッションに取り組みました。更に韓国放送メディア技術学会 KIBME(The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)との連携について、昨年に引き続き KIBME セッションを実施しました。技術交流会会場にて KIBME との覚書締結式を行い、放送・コンテンツに関わる技術交流のグローバル化を促進しました。

新たな分野の育成（スポーツ映像処理など）、新たな業種の取り込み（コンテンツ流通や多様なメディア、スタートアップ企業等）を狙った施策として、特集テーマセッション「AI の医療応用」や、2018 年冬季大会に引き続き自動車分野を取り上げた企画セッション「自動運転時代の車載エレクトロニクス」などを企画・実施し、新たな分野、業種への展開を図りました。

2019 年映像情報メディア学会冬季大会は、12 月 12 日（木）～13 日（金）の 2 日間の日程で、電気通信大学で開催されました。一般講演 111 件（フェロー記念講演 4 件含む）、特別企画として企画講演 3 セッション 28 件、デモ展示 2 セッション 18 件で構成され、2 日間の延べ参加人数は 1024 人と、例年を大きく上回りました。

当学会の特長を活かした企画として、企画セッション「IP を用いた番組制作技術」、デモセッション「VR/AR を支える要素技術および応用技術」、前年度受賞案件によるデモセッションを実施するなど、クオリティの高い展示を企画し、多くの方々に参加いただきました。

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の後、東京五輪の前という好機を活かし、スポーツ技術に関する企画セッション「スポーツ情報処理 2020 そして、これから!？」や、『いよいよ始まる、5G（高速・大容量、低遅延、多接続）が拓く新たな世界』といったタイムリーな講演を企画し、集客を図りました。

大会運営に関する取り組みでは、会場大学からの大会運営参加の継続実施、会場学生の聴講参加費無償化、参加者同士のコミュニケーションを一層促進するための技術交流会の参加費無償化を継続しました。また、幅広い層の会員に参加を促し会員数減少の抑制につながる施策として、エグゼクテ

イブ会員の聴講参加費の優遇や、新たにフェローに認定された方の記念講演を継続実施しました。

会員増加に向けた新たな取り組みとして、非会員の発表者を年度終了まで正会員に準ずる会員とする準会員制度を開始し、2020年2月時点で78名を準会員として登録しました。

③ 編集委員会（担当：林編集担当理事）

学会員の満足度を向上させる企画作りと情報提供の強化に向けて、定期的に開催される編集委員会および部門委員会で、様々な観点から学会誌の在り方および提供情報内容について検討・議論を行い、施策を進めました。

学会誌が学会員と学会を結ぶ重要な役割を担っていることを鑑み、多様な学会員のニーズに応えるとともに、より充実した情報内容の提供を心がけました。利便性を高めるためWebページからダウンロードによる会誌閲覧を可能にするとともに、メールマガジンによる学会誌目次の配信等を通じて、学会員に対するタイムリーでコンスタントな情報提供を図りました。

＜各部門の検討内容と結果＞

(1) 会誌部門

学会誌のページ数を考慮したうえで、会誌アンケート、代議員モニタ、支部長会議、研究委員会等からの要望を汲み取り、学会誌の品質の維持と学会員からのニーズに十分に答えられる会誌作りに努めました。具体的には、特集、技術解説、研究動向、話題、講座等を魅力ある内容とするとともに、記事間のバランスにも配慮した編集方針で運営し、今年度（2019年5月号～2020年3月号）は、特集11編、技術解説や解説記事19編、それ以外にも多数のシリーズ企画を掲載し、タイムリーな情報を学会員に提供しました。一方で、シリーズ企画の再検討を行い、アンケート評価の高い「輝け！リケジョ」、「異業種での映像情報メディア利用」、「ベンチャービジネス」は、基本的に毎号掲載を継続し、その他のシリーズについては、掲載頻度を減らして継続することとしました。また、引き続き、相乗効果によって学会活性化と学会員の満足度向上に資するよう、学会内の様々な委員会やイベントと会誌の連動企画を検討しました。今年度は、論文委員会との企画や年次大会との連動企画を掲載しました。加えて、学会誌に新しい魅力を加えるべく、新連載講座「触覚技術入門～触覚インターフェースの可能性～」を2020年3月号から開始しました。

2020年6月で学会創立70周年を迎えることから、この10年間の活動を振り返るとともに80周年までのグランドチャレンジを考えることを趣旨とした「創立70周年記念特集」を2020年9月号で企画しました。

(2) 海外文献部門

海外文献収録情報をWebページに掲載するとともに、情報をより広く学会員に届けるために、速報版公開時の和文表題のSNS投稿について、調査した文献の全件を投稿することとしました。

(3) ニュース部門

ニュース部門委員数の減少に伴い、活動内容の見直しを検討し、年間統括記事（年間ニュース技術動向）は取りやめとし、年5回開催の委員会は記事選定のみとし、検討事項がない場合は、メール審議とすることとしました。また、学会HPで公開のニュース記事の閲覧は2019年度終了としました。

④ 論文委員会（委員長：篠田浩一）

2019年度の論文委員会の構成は、篠田浩一委員長（和文論文編集委員会委員長、MTA編集委員会委員長兼務）、和文論文編集委員会副委員長の瀧口吉郎委員と藤井俊彰委員、MTA編集委員会副委員長の内藤整委員と佐野雅規委員、編集担当理事（1年目）の山崎俊彦委員、編集長の八木伸行アドバイザーの7名でした。幹事には、内藤整委員が指名されました。

6月の新体制後の委員会では、活動方針、現況把握、特集号の企画などの確認を行うとともに、情報発信の強化策を検討しました。また、二重投稿の確認を効率化できる剽窃チェックソフト（Similarity Check）の導入を検討し、導入申請を行いました。申請により、2020年1月に利用採択が決定し、査読システム上で利用可能となり、委員長・副委員長による運用パラメータの検討を経て、運用を開始しました。さらに、学会誌研究ハイライトの掲載対象論文にMTA掲載論文を含めることを検討し、推薦対象に含めることとしました。2019年9月号より和文・MTAの論文を交互に掲載しています。

10月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、二重投稿の

該当事項に関して和文誌の投稿規定を改訂することを検討し、MTA の投稿規定を翻訳することとしました。

2 月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、論文賞候補を和文論文、MTA 論文からそれぞれ 3 編、合わせて 6 編の論文を選定し、各論文の推薦書の確認を行いました。

(1) 和文論文関係

- ・2019 年度（2019 年 5 月号～2020 年 3 月号の計 6 号）は、30 編の論文等を掲載しました（論文 22 編（招待論文 8 編含む）、研究速報 4 編、フィールド論文 2 編、特集巻頭言 2 編）。

- （参考：2018 年度の掲載数は論文 24 編（招待論文 9 編含む）、研究速報 7 編、フィールド論文 2 編、これすばんです 1 編、特集巻頭言 4 編）

- ・二重投稿の該当事項に関して、和文誌と MTA の投稿規程で差分が生じているため、MTA の投稿規定を翻訳する形で和文誌の投稿規定の改訂を行いました。

(2) MTA 関係

- ・2019 年度（2019 年 7 号～2020 年 4 月号の計 4 号）は、27 編の論文等を掲載しました（論文 23 編（招待論文 3 編含む）、特集巻頭言 4 編）（参考：2018 年度の掲載数は（論文 27 編（招待論文 4 編含む）、特集巻頭言 4 編）

- ・論文共著者に専門分野内の著名人を含めることで高い引用数を獲得した事例などを確認し、インパクトファクター取得のための引用数増加に関する具体的施策を検討しました。

⑤ 技術委員会（担当：居相調査担当理事）

研究会活動の活性化に関する取り組みでは、各研究委員会活動予算について、9 月末までの執行率および下期修正予算案を取りまとめ、研究会間での再配分や学会への返納等を必要に応じて実施することで、研究会全体として予算を有効に活用する取り組みを継続しました。また、研究会活動の活性化に繋がる新規イベント等を奨励するための研究会活性化費（研究会とは別の有料のセミナーやシンポジウム等の補助）をメール審議で随時受け付けることを可能とすることで、迅速性と柔軟性を高める取り組みを継続しました。

2018 年 4 月より正式運用を開始した「研究会報告オンラインシステム」を利用した予稿 PDF ダウンロードサービスは、安定稼働しており、運用上の大きな課題も報告されておらず、定着している状況です。また、より電子化を進め、他学会とも平仄を取りつつ参加費有料化することで、他学会との大きな乖離を解消するとともに、研究会での参加数や利便性等を落とさずに収支改善にも貢献することを目的として、昨年度より検討を進めてきた研究会の参加費有料化と電子化促進について、今年度参加費有償化の具体案を決定しました。予稿については PDF ダウンロードを基本としつつ、当面は希望者には冊子体での頒布も可能としました。次期からの実施を目途に、「技報オンラインシステム」を参加費有償化に対応するよう改修を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020 年 2 月下旬から研究会の開催を見合わせています。

⑥ 選奨委員会（担当：石井総務担当理事）

学会選奨規程に基づき丹羽高柳賞については、功績賞 1 件、業績賞 1 件、論文賞 3 件、鈴木記念奨励賞については 6 件を選考しました。技術振興賞については、進歩開発賞（現場運用部門）4 件、進歩開発賞（研究開発部門）3 件、コンテンツ技術賞 5 件を選考しました。また、映像情報メディア未来賞として、1 件のフロンティア賞と 1 件の次世代テレビ技術賞を選考しました。

昨年度からの申継事項等に対応するため、応募数増加の施策として、技術委員会や放送技術研究委員会、民放系列局へ選奨の応募依頼に加えて、今年度はさらに支部長会議にて 2015-2018 年度の応募状況を提示し、支部からの応募推奨を図りましたが、支部からの実際の応募には至りませんでした。また、第 1 回選奨委員会時にも過去の受賞者一覧（2010-2019 年）を提示して功績賞、業績賞について応募勧奨を行いました。このほか、選考時の公平性の観点から、選考部会出席委員に同一組織からの参加が多くなるような偏りが生じないように事務局で事前調整を実施しました。選考部会の可視化については実現に向けた事務局体制が整わないこと、また、具体的な効果が見出せないことから今年度の実施は見送りました。

「活性化課題リスト」で示された非研究者（特にメディア系社会人）への選奨アピールについて、新たな賞の新設の可能性を議論しましたが、既存の賞の応募者数を増やす施策により会員への選奨

に対する意識向上を図る方が好ましいとの結論に至り、冬季大会プログラムの会誌掲載と併せて「選奨候補推薦のお願い」を掲載しました。また、学術的成果のアピール、産業的成果のアピールの議論では、過去の受賞を抽出して、受賞後の実用化状況を評価する案が出されましたが、具体的な選定は技術委員会に委ねることとし、今後の検討課題としました。

例年3月に実施してきた選考部会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響に配慮し、5月中旬に実施しました。今年度の委員会活動を踏まえて2020年度の体制に対し、選奨委員会で決定した数点の申し継ぎ事項の実施に加え、継続した功績賞・業績賞の応募過小時の対応、応募増への取り組み、自然災害や生命維持に影響与える感染症拡大など、不測の事態が生じた際の選奨活動指針の明文化などを申し継ぎます。

⑦ フェロー選定委員会（担当：松田総務担当理事）

2019年度は、規定の手順に従ってフェロー候補者4名を選出しました。なお、2020年3月に予定されていた第2回フェロー選定委員会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となり、メール審議にて最終的なフェロー認定会員の選出および次年度申継事項の聴取を行いました。定足数を十分に上回る回答があり、手続き上特段の問題は生じませんでした。

前年度からの申し継ぎ事項として、フェロー総数が規程の上限（会員数の5%）に近づいていることへの対策が挙げられていましたが、これについては第3回定例理事会（9月開催）にてフェロー選出規程第13条で定められた単年度に選出されるフェロー会員数を「毎年10名以内」から「正会員および名誉会員の合計数の0.2%相当を上限とする」に改定することで対処しました。この上限数を現会員数に当てはめると5.23人となり、今回のフェロー選定者数は規定に則ったものとなります。

フェロー認知度の向上に向けた施策としては、2017年度より継続している年次大会／冬季大会での「フェロー記念講演会」を前年度フェロー認定会員に依頼し、9名全員（年次大会5名、冬季大会4名）の講演が実現しました。2020年度は年次大会が中止となるため、冬季大会を兼ねた70周年記念大会にて「フェロー記念講演会」の企画を継続するよう大会実行委員会に依頼します。また、レフリーの資格について候補者との所属の重複度合いに関する規定を明確化することも次年度への申し継ぎ事項としました。

⑧ テストチャート委員会（担当：居相調査担当理事）

2018年度に制作した超高精細・広色域HDR版標準動画像Cシリーズの頒布について、解説書の作成などを行い、頒布を開始しました。年次大会と冬季大会の会場受け付けやInterBEEにおいて、すでに頒布を開始している標準動画像Bシリーズ、標準音源Aシリーズと合わせて周知、販促を行いました。

Dシリーズ以降の標準動画像や三次元マルチチャンネル音響標準音源については、標準動画像Cシリーズの頒布準備や販売促進を優先し、今年度は進捗がありませんでした。標準動画像については、高フレームレート（8K 120P, 240P等）を対象に制作計画を策定する予定ですが、VRの撮影も検討する予定です。三次元マルチチャンネル音響標準音源Bシリーズについては、22.2chの機器チェックや音源移動などを想定した標準音源Aシリーズに対して、エンターテインメント性を追求したものや、実視聴環境を考慮した7.1/5.1/3.1chなどにダウンミックスしたものなどを、ARIBと連携して検討していきます。

⑨ 国際会議検討委員会（担当：深澤企画担当理事）

国際会議の企画運営や国際間相互協力等に関する国内外の関連学協会との関係構築と維持を行うことを通じて、本学会の活性化や会員サービスの向上につとめました。昨年に続きSIDと共催するIDW 2019（ディスプレイ国際ワークショップ）に参画しました（2019年11月27日～29日 札幌コンベンションセンター）。

海外学会との連携について昨年に引き続き2学会と会合を持ちました。まずはブラジルテレビ技術協会（SET）ですが、Fini会長が5月に来日されMOUを締結しました。学会間の交流を活性化したいとの趣旨で会合を持ち、互いの会誌のリファーマーする事（映メ誌では海外文献速報にSETのジャーナル記事を載せる事）や、8月のSET expoと映メ年次大会での相互のリモート講演などを検討しました。ただしこのリモート講演に関しては時差もあり参加者も限られることなどから、昨年と同様に実施できませんでした。韓国放送メディア学会（KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers）とも5月にKIBME幹部と会合を持ち、MOUを結びお互いの協力関係の確認を実施し

ました。昨年に続き本学会の年次大会において KIBME からの発表者を迎え 4 件の発表を企画しました（企画セッション 3 『KIBME SESSION』）。これに対して KIBME から要請があり、先方の秋季大会（KIBME Fall Conference 2019）において本学会から講演者を派遣しました。ICAI2020(International Conference on Advanced Imaging)は 2020 年 11 月 1 日～6 日、幕張メッセでの開催を予定しております（日本画像学会、日本写真学会、日本印刷学会他）。ただし弊会は創立 70 周年記念シンポジウムを同時期に開催を予定していることから、会期中の一セッションのみの企画を担当することとしています。

⑩ 映像情報メディア発展事業資金運営委員会（担当：高阪会計担当理事）

映像情報メディア発展事業に寄与する案件について、積極的な資金投入を推進するという観点から、学生の国際学会発表に対する援助を 1 件行いました。

また、創立 70 周年記念事業への、発展事業基金活用の検討をしました。

さらに支部における論文賞の副賞への支出を行いました。

⑪ 長期計画検討委員会（担当：石井総務担当理事）

本委員会では、日本における少子高齢化や本学会と関連の深い産業界の動向などの社会情勢の変化、学会の財政状態や会員数の推移などの状況を踏まえて、長期的視点から学会活動の方針を検討し、理事会に対し、課題解決に向けた実行を促すことで、学会の維持発展に寄与する活動を行っています。また、2016-2018 年度の期間に時限委員会として活動した学会活性化委員会の活動を引き継ぎました。

2019 年度は、新任の委員長に本会役職経験者を、また、空席となっていた委員に会計担当理事を迎え、アクションプランに取り組む委員会構成の見直し（委員会数 13→11）や「活性化課題リスト」の整理・更新、財政構造のシナリオ、会員ニーズ把握に向けたアンケート、若手会員獲得に向けた企画、理事会の在り方などについて検討を行いました。これらの中で、メール審議活用による理事会の回数削減については 2020 年度からの実施を、また、検討に留まった支部役員や研究委員会委員長の理事会への参加や会員アンケートの実施については、継続課題として 2020 年度の体制に申し継いで行きます。

このほか、学会活性化委員会の活動を引き継ぎ、2020 年に開催する創立 70 周年記念事業 WG の設立や年次大会、冬季大会時の非会員の大会参加者を一定期間会員扱いとする「準会員制度」を実行しました。創立 70 周年記念事業は 2020 年度の冬季大会と併せて 12 月 22 日（火）～24 日（木）の 3 日間、一橋講堂での開催を計画しています。また、2019 年度は準会員として 78 名の年次大会・冬季大会参加者が本学会に入会されました。

2019年度事業報告の附属明細書

1. 会員数の異動（2020年3月31日現在）

注：同日付退会者を「退会」に含む，同日付資格喪失者を「資格喪失」に含む

	名誉会員	正会員	学生会員 (内アカデミック学生)	維持会員	特殊会員	準会員	合計
2019年4月始	45	2587	230 (182)	182 (942口)	44	0	3088
入会 (変更) 退会 (死亡) 復会 資格喪失	3	68 -215 -30	47 (20) -31 (12) -3	5 (6口) -8 (-37口) -2 (-2口)	1 -6 -1	78	202 -260 -36
増減	3	-177	13	-5 (-33口)	-6	78	-94
2020年3月末	48	2410	243 (190)	177 (909口)	38	78	2994

*アカデミックパートナー登録研究室：22研究室

2. 機関誌，論文集，英語論文誌，研究会資料などの刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

編集委員会（編集長 八木伸行）において、「映像情報メディア学会誌」第73巻第3号通巻824号～第74巻第2号通巻829号の計6号を，隔月（奇数月）1日に，年間計20,420部発行し，会員に配布しました。

今期の編集関係会議は，定例編集委員会として，企画委員会を7回（内2回はコロナウイルス対策のためメール審議），ニュース部門委員会を1回，海外文献部門委員会を4回（内1回はコロナウイルス対策のためメール審議），年次企画委員会を3回（内1回はコロナウイルス対策のためメール審議）開催して，会誌部門・海外文献部門・ニュース部門の3部門間で情報共有を密にし，わかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

今年度特集テーマは，7月号1テーマ，他号は2テーマとし，ページ数を厳守し，タイムリーでホットな情報提供をいたしました。また年次・冬季大会や研究会で発表される最新の情報を提供すべく，特別企画や特別講演などから企画をピックアップし，解説記事の掲載を行いました。また図については，読者の理解を深めるため，モノクロ掲載を推奨しつつ，作成費を考慮しながら，必要に応じカラー図の掲載をいたしました。

①J-STAGE を介したオンラインジャーナルについて

会誌冊子体部分は，例年通り発行後2ヵ年を経た，2018年3月号（Vol.71, No.3）までを全文公開しました。

②第8回「動画コンテンツ優秀賞」の選定について

2019年1月号～12月号（オンラインジャーナルも含む）に提供された会誌関連動画コンテンツの中から，次の1件を「優秀賞」に選定し，オリジナル図書カードを進呈するとともに，ホームページ上で公表しました。

〔優秀賞〕会誌2019年7月号＜ベンチャービジネス＞

③海外文献部門委員会

2019 年 1 月号から、会誌に毎号海外文献紹介を掲載することとしました。今後も継続して掲載いたします。また、具体的な情報を発信できるよう、速報版公開時の和文表題の SNS 投稿について、調査した文献の全件を投稿とすることといたしました。

④ニュース部門委員会

部門委員の減数に伴い、部門委員会の運営方針の見直しを行いました。年 5 回開催の委員会は、検討事項がなく、記事選定のみの場合は、メール審議で行うこととし、年間統括記事（年間ニュース技術動向）の会誌への掲載も取り止めることにいたしました。さらに学会 HP で公開の会誌掲載候補として提案されたニュース記事の閲覧は、2019 年度で終了することといたしました。

⑤その他の新しい試み

(a) 2020 年 1 月号～11 月号の表紙は一般公募を行わず、2018 年の表紙に戻し作成することといたしました。また裏表紙（表 4）のデザインは、テストチャート HDR 版の販売促進を兼ね、テストチャート HDR 版の画像を組み込むことにいたしました。

(b) <講座>「触覚技術入門～触覚インタフェースの可能性～」の連載を 2020 年 3 月号より開始しました。

(c) 「創立 70 周年記念特集」について

2020 年 6 月 1 日で、創立 70 周年を迎えることから、「創立 70 周年記念特集」を 2020 年 9 月号に企画することといたしました。この 10 年間の活動を振り返るとともに 80 周年までのグランドチャレンジを考えることを趣旨とし、技術委員会委員長・幹事長、各研究委員会委員長、論文委員会、調査理事に執筆を依頼いたしました。

(d) 会誌に掲載の総会報告について

総会報告は、毎回ページ数が嵩むことから、経費削減、原稿作成の負荷を考慮し、総会報告のレイアウトを変更いたしました。これにより、会誌には事業報告・附属明細および事業計画をほぼ総会報告どおりのレイアウトで掲載し、決算報告・予算は HP で閲覧するよう変更いたしました。

(e) 今年度も総務省関連の記事を年 2～3 件を目途に企画しました。引き続き総務省関連記事の企画を行います。

(f) 選奨受賞関連記事の企画について

丹羽高柳賞<功績賞>、<業績賞>の受賞者および本年度フェローに認定された方からの「会員へのメッセージ」を 9 月号に掲載しました。今後も引き続き行います。

(g) 大会との連携を目的に、冬季大会企画セッションと連動した<特集>「自動運転時代の車載エレクトロニクス」を、2019 年 11 月号で企画いたしました。

(h) 「映像情報メディア年報 2019 シリーズ」について

10 の研究委員会・時限研究委員会により、2019 年 1 月号から連載企画を開始し、2020 年 9 月終了予定。また「映像情報メディア年報 2021 シリーズ」も連載企画することといたしました。

(i) 学会 HP での全文公開について

アクセス制限なしで<知っておきたいキーワード><年報><輝け！リケジョ><研究開発ツール><話題；見聞記><報告><ベンチャービジネス>の各欄を、学会 HP に全文公開いたしました。今後も継続いたします。

(j) 研究委員会、支部との連携強化をはかるため、会誌企画は例年通り各研究委員会および各支部にテーマの提案をお願いしました。今年度は研究会企画提案 3 件、支部題目提案 4 件を会誌に掲載いたしました。今後も引き続き提案依頼を行います。また研究委員会および各支部から提案いただいた題目が会誌に掲載された際は、前年度まではそれぞれのロゴを記事に明示しましたが、今年度からはフォワード文に研究委員会および各支部名を明示することにしました。

(k) ベストオーサーの見直しについて

ベストオーサー賞の選定は、学会ホームページ上で行っているアンケート調査結果をもとに、毎号一番好評を博した原稿に、毎号編集長（編集委員会）から受賞者に授与したが、最高得票得票数が号ごとにばらつきがあり、次点が僅差であることも多いことから、選定の見直しをいたしました。号ごとの授与をやめ、動画コンテンツ優秀賞と同様に、年間での授与とし、かつ、編集委員会（企画委員会）が最終評価に関与する方式にいたしました。さらに、新しい表彰形式に伴い、誤解を避けるため、名称変更も「ベストオーサー賞」から「ベストアーティクル賞」に変更いたしました。連動して、「動画コンテンツ優秀賞」の名称も「ベスト動画コンテンツ賞」いたしました。なお対象は2020年1月号からとしました。

⑥2019年5月号～2020年3月号の特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ィ マ	編数	頁数
2019. 5	特 集 A	質感研究の最前線	6	30
	特 集 B	圧縮センシングとスパースモデリング	5	29
2019. 7	特 集	アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会設立 20周年記念	15	47
2019. 9	特 集 A	ライトフィールドの取得・再生技術	6	27
	特 集 B	スポーツ中継を支える技術	6	36
2019. 11	特 集 A	アクセシビリティサービス最前線	5	23
	特 集 B	自動運転時代の車載エレクトロニクス	5	33
2020. 1	特 集 A	AI 記者～ニュース原稿を自動作成する～	5	23
	特 集 B	AI 技術の実応用最前線	6	29
2020. 3	特 集 A	コネクティッドカーおよび自動運転	6	31
	特 集 B	イメージセンサ技術の最新動向	6	29

⑦2019年5月号～2020年3月号の講座、てれび・さろん等のシリーズ連載テーマ

月 号	欄 名	連 載 テ ィ マ	掲載回数	連載時期
2019. 5, 7, 11 2020. 1	講座	放送業界における IP 化 ～IP 番組制作とその関連技術の解説～	全 6 回	2019 年 3 月から継続 2020 年 1 月終了予定
2020. 3	講座	触覚技術入門 ～触覚インタフェースの可能性～	全 6 回	2020 年 3 月から継続 2021 年 1 月終了予定
2019. 5, 7, 9, 11 2020. 1, 3		映像情報メディア年報 2019 シリーズ	全 10 回	2019 年 1 月から継続 2020 年 9 月号終了予定
2019. 5, 9, 11 2020. 1, 3	てれび・さろん	知っておきたいキーワード	全 135 回	2006 年 6 月から開始
2019. 5, 7, 9 2020. 3		私の研究開発ツール	全 109 回	2007 年 7 月から開始
		名誉会員からのメッセージ ～次代を担う若者に向けて～	全 29 回	2008 年 8 月から開始
2020. 3		標準化現場ノート	全 39 回	2010 年 4 月から開始
2019. 5		メディアウォッチ	全 28 回	2012 年 1 月から開始
2019. 5, 7, 9, 11 2020. 1, 3		輝け！リケジョ（理系女子）	全 49 回	2013 年 8 月から開始
2019. 7, 9, 11 2020. 1		異業種での映像情報メディア	全 32 回	2015 年 1 月から開始

2019. 5, 7, 9, 11 2020. 1		私の日本滞在記	全 22 回	2015 年 11 月から開始
2019. 5 2020. 1		思い出の 1 枚	全 16 回	2017 年 1 月から開始
2019. 5, 7, 9, 11 2020. 1, 3		研究ハイライト	全 19 回	2017 年 3 月から開始
2019. 5, 7, 9 2020. 1, 3		ベンチャービジネス	全 13 回	2018 年 1 月から開始

⑧2019 年 5 月号～2020 年 3 月号の会誌各欄のページ数

欄 名	頁数	欄 名	頁数	欄 名	頁数
年頭インタビュー	11	話 題；見聞記	80	ベンチャービジネス	19
ふぉーかす	5	講 座	39	メディアウォッチ	4
お祝い文	0	年報シリーズ	48	報 告	40
追悼文	1	名誉会員からのメッセージ	0	ニュース	25
受賞者・役員紹介	12	私の研究開発ツール	19	海外文献収録	13
目 次	18	知っておきたいキーワード	20	学会からのお知らせ	55
特別寄稿	6	標準化現場ノート	4	学会だより	17
講 演	7	輝け！リケジョ（理系女子）	19	総目次	8
特集本文	337	異業種での映像情報メディア	24	論文目次	6
技術解説	101	私の日本滞在記	22	英語論文目次	4
研究動向	11	思い出の 1 枚	2	合 計	1030
話 題	34	研究ハイライト	47		

注）他に、「新刊図書」8 冊、「技術資料」0 頁、「広告」16.5 頁、「メールニュース広告」0 回配信。

「カタログ同封サービス」および「バナー広告」はなし。

（2）論文関係

論文委員会（委員長 篠田浩一）において、「和文論文誌」第 73 巻第 5 号～第 74 巻第 3 号の計 6 号と、「ITE Transactions on Media Technology and Applications」を第 7 巻第 3, 4 号，第 8 巻第 1, 2 号の計 4 号を，下記のとおり J-STAGE を介したオンラインジャーナルとして公開しました。

今期の論文委員会は年 3 回の委員会開催に加えて，e-mail 等を活用して効率的な運営を致しました。

①会誌研究ハイライトの掲載対象論文について

会誌編集委員会の提案により，掲載対象論文に MTA 掲載論文を含めることを検討し，推薦対象に含めることとしました。2019 年 9 月号より和文・MTA の論文を交互で掲載しています。

②和文論文誌投稿規程の改定について

2 重投稿の該当事項に関して，和文誌と MTA の投稿規程で差分が生じているため，和文誌の投稿規程を MTA に沿わせる形で改訂することとしました。2020 年 2 月の理事会にて報告後，ホームページ上の規程の差し替えを行いました。

③剽窃チェックソフトの導入について

Similarity Check（利用申請先：J-STAGE）の導入について検討の上，利用申請を行いました。2020 年 1 月に利用採択が決定し，データベースへの登録作業等を経て利用可能となりました。その後，和文・MTA 編集委員会での試行期間を経て決定したパラメータにて，今後の運用をすることとしました。

④2019 年度丹羽高柳賞論文賞候補論文の選定

和文・MTA 各 3 編の推薦文を起票し，委員会席上にて最終候補論文とすることを決定しました。推薦

文の最終確認を行った後に、選奨委員会に提出しました。

⑤論文編集功労賞・論文査読功労賞の選定について

和文論文誌・英語論文誌（MTA）の両論文誌の編集委員担当数・査読編数が 20 編以上の編集委員・査読者を表彰する論文編集功労賞・論文査読功労賞は、ともに受賞者無しでした。

⑥2019 年 5 月号～2020 年 3 月号の論文特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2019. 11	論 文 特 集	ディスプレイ IDW' 18 を中心にー	(1)	(4)
2020. 1	論 文 特 集	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論文	[2] , [3]	[12] , [18]

[] はフィールド論文, () は研究速報, [] は招待論文, 【 】 は招待フィールド論文

⑦2019 年 5 月号～2020 年 3 月号 オンラインジャーナルのページ数

欄 名	オンラインジャーナルの頁数(編数)
巻 頭 言 (特 集)	2 (2)
招 待 論 文	20 (3)
招待フィールド論文	30 (5)
論 文 (一 般)	95 (12)
(特 集)	0 (0)
動画付き論文 (一 般)	14 (2)
(特 集)	0 (0)
動画付きフィールド論文 (一 般)	8 (1)
(特 集)	0 (0)
フィールド論文 (一 般)	5 (1)
(特 集)	0 (0)
研 究 速 報 (一 般)	12 (3)
(特 集)	4 (1)
動画付き研究速報 (一 般)	0 (0)
(特 集)	0 (0)
これすぽんでんす	0 (0)
合 計	190 (30)

⑧英語論文誌「ITE Transactions on Media Technology and Applications」特集テーマとページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2019. 7	Special Section	Technology for Information and Content Accessibility	5 【1】	36 【6】
2019. 10	Special Section	IDW ' 18	5	34
2020. 1	Special Section	Advanced Multimedia Transmission Technology and Its Application	5 【2】	47 【16】
2020. 4	Special Section	Advanced Image Sensor Technology	4	41

【 】 内は Invited Paper

⑨2019年7月号・10月号, 2020年1月号・4月号

英語論文誌「ITE Transactions on on Media Technology and Applications」の ページ数

欄名	頁数(編数)
Foreword (Special Section)	4 (4)
Invited Paper (Special Section)	22 (3)
Paper (Special Section)	136 (16)
Paper (Regular Section)	45 (4)
合 計	207(27)

(3) 大会・講習会・講演会論文集（予稿集）関係

- ・2019年年次大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）発行
- ・2019年冬季大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）発行

(4) 研究会資料（技術報告）関係

巻 号	発行年月日	発行部数	備 考
V o l . 4 3	2 0 1 9 年		特になし
N o . 1 2	5 月 1 8 日	1 2 0 部	
N o . 1 3	" 5 月 3 0 日	1 7 0 部	"
N o . 1 4	" 6 月 3 日	1 1 0 部	"
N o . 1 5	" 6 月 6 日	1 1 0 部	"
N o . 1 6	" 6 月 6 日	1 2 0 部	"
N o . 1 7	" 6 月 7 日	2 1 0 部	"
N o . 1 8	" 6 月 1 1 日	1 6 0 部	"
N o . 1 9	" 6 月 2 6 日	2 0 0 部	"
N o . 2 0	" 7 月 9 日	2 6 0 部	"
N o . 2 1	" 7 月 9 日	1 5 0 部	"
N o . 2 2	" 7 月 1 2 日	1 1 0 部	"
N o . 2 3	" 7 月 1 8 日	1 7 0 部	"
N o . 2 4	" 7 月 2 6 日	1 9 0 部	"
N o . 2 5	" 7 月 3 1 日	1 5 0 部	"
N o . 2 6	" 8 月 1 9 日	1 4 0 部	"
N o . 2 7	" 8 月 2 9 日	1 2 0 部	"
N o . 2 8	" 8 月 3 0 日	1 7 0 部	"
N o . 2 9	" 9 月 6 日	1 3 0 部	"
N o . 3 0	" 9 月 1 2 日	1 3 0 部	"
N o . 3 1	" 9 月 1 3 日	2 6 0 部	"
N o . 3 2	" 9 月 2 8 日	1 3 0 部	"
N o . 3 3	" 1 0 月 1 0 日	1 2 0 部	"
N o . 3 4	" 1 0 月 1 7 日	1 6 0 部	"
N o . 3 5	" 1 0 月 1 7 日	1 6 0 部	"
N o . 3 6	" 1 1 月 1 日	2 0 0 部	"
N o . 3 7	" 1 1 月 1 日	1 4 0 部	"
N o . 3 8	" 1 1 月 4 日	1 8 0 部	"
N o . 3 9	" 1 1 月 7 日	1 5 0 部	"
N o . 4 0	" 1 1 月 1 4 日	1 6 0 部	"
N o . 4 1	" 1 1 月 2 8 日	1 1 0 部	"

No. 42	11月28日	160部	〃
No. 43	12月13日	180部	〃
No. 44	12月17日	110部	〃
Vol. 44	2020年		
No. 1	1月16日	150部	〃
No. 2	1月16日	180部	〃
No. 3	1月23日	140部	〃
No. 4	2月1日	180部	〃
No. 5	2月13日	170部	〃
No. 6	2月20日	210部	〃
No. 7	2月27日	180部	〃
No. 8	2月28日	160部	〃
No. 9	3月4日	130部	〃
No. 10	3月6日	130部	〃
No. 11	3月20日	380部	〃

3. 調査・研究活動（定款 第4条（3））

（1）技術委員会

技術委員会（委員長 伊東 晋）は、今期3回開催し、本会の研究委員会・時限研究会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。

今期は、昨年に引き続き、「優秀研究発表賞」（受賞者15名）の受賞式を12月の冬季大会技術交流会の席上で行い、受賞者の顔写真等と概要を会誌2020年3月号に掲載いたしました。

昨期に引き続き、新領域開拓や、多数の有料参加による大規模なシンポジウム開催を奨励するための投資的経費を設定し、申請に基づく運用を行いました。今期中に実施した施策はありませんでした。

昨期より開始された、「技報オンラインシステム」による予稿 PDF ダウンロードサービス（研究会当日の技報（冊子）購入者に、掲載されている予稿の PDF ダウンロード権配布）を今年度も実施いたしました。

昨期より検討を開始した研究会参加費有償化について、参加費金額、支払方法等詳細を決定し、次期からの実施を目途に、「技報オンラインシステム」の改修を行いました。

（2）研究委員会

次表に記載の9の研究委員会において、それぞれ活発な研究会活動を推進いたしました。

ただし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年2月下旬～3月開催予定だった研究会は中止（または延期）となりました。

本年度は「技術報告」を44分冊およびCD-ROM1部を出版いたしました。

委 員 会 名	委員長名	開催数	海外	備 考
情報センシング研究委員会	秋 田 純 一	7（3）		延期1回
情報ディスプレイ研究委員会	木 村 宗 弘	7（3）		延期1回
マルチメディアストレージ研究委員会	石 井 紀 彦	4（3）		中止1回
放送技術研究委員会	斎 藤 恭 一	8（8）		見学会1回 中止1回
ヒューマンインフォメーション研究委員会	永 井 岳 大	3（1）		中止2回
メディア工学研究委員会	田 川 憲 男	6（4）	1	中止1回
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	向 井 信 彦	3（1）	1	中止2回
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	樺 澤 哲	3（0）		
立体映像技術研究委員会	堀 越 力	5（2）		中止1回

開催数は中止（または延期）分を含まず。（ ）付数字は地方開催数。

（3）時限研究会

委 員 会 名	委員長名	開催数	備 考
スポーツ情報処理時限研究委員会	渡辺 裕	2	中止1回

4. 大会の開催（定款 第4条（4））

（1）2019年年次大会

年次大会実行委員会（委員長 熊澤逸夫）において、次のとおり企画開催いたしました。

会 期 2019年8月28日（水）～30日（金）

会 場 東京工業大学 大岡山キャンパス

参加者数 320名

一般講演（応募講演） 33セッション（130件）

企画講演 シンポジウム：3セッション（18件）／公開講演会：1セッション（5件）／

KIBME SESSION：4件／フェロー記念講演：5件／招待講演：3件

懇親会 参加者数：56名

2019年年次大会セッション・講演件数・座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	メディア処理基礎 1	4	望月 貴裕（NHK）	
2	映像表現&CG 1	4	木全英明（NTT）	
3	メディア処理基礎 2	4	遠藤 伶（NHK）	
4	放送方式 1	4	斉藤 一（テレビ東京）	
5	映像表現&CG＋フェロー記念講演	3	杉本志織（NTT）	
6	センシング 1	5	為村成亨（NHK）	
7	メディア処理基礎 3	5	宮崎太郎（NHK）	
8	放送方式 2	5	山本正男（NHK）	
9	無線・光伝送 1	5	白井規之（NHK）	
10	ヒューマンインフォメーション 1	5	清水俊宏（NHK）	
11	コンピュータビジョン＋フェロー記念講演	4	河合吉彦（NHK）	
12	放送方式 3	6	白戸 諒（NHK）	
13	ヒューマンインフォメーション 2	5	高橋正樹（NHK）	
14	立体映像技術 1＋フェロー記念講演	3	高田英明（NTT）	
15	〔特集テーマ〕AR・VR 1	3	向井信彦（東京都市大）	
16	〔特集テーマ〕AI の医療応用	5	熊澤逸夫（東工大）	
17	立体映像技術 2	4	巻口誉宗（NTT）	
18	放送現業	5	津田貴生（NHK）	
19	放送方式 4＋フェロー記念講演	4	大内幹博（パナソニック）	

20	〔特集テーマ〕 AR・VR 2	4	高田英明 (NTT)	
21	スポーツ情報処理 1	3	角田 貢 (日体大)	
22	無線・光伝送 2	4	鈴木高幸 (テレビ朝日)	
23	画像符号化	4	松尾康孝 (NHK)	
24	スポーツ情報処理 2	2	三ッ峰秀樹 (NHK) 三上 弾 (NTT)	
25	放送方式 5 + フェロー記念講演	4	塩川茂樹 (神奈川工科大)	
26	ヒューマンインタフェース	5	根岸博康 (三菱電機)	
27	センシング 2	5	為村成亨 (NHK)	
28	ディスプレイ	4	馬場雅裕 (東芝)	
29	映像表現&CG 3	4	杉本志織 (NTT)	
30	メディア処理応用	4	根岸博康 (三菱電機)	
31	センシング 3	5	為村成亨 (NHK)	
32	マルチメディアストレージ	4	船橋信彦 (NHK)	
33	映像表現&CG 4	3	杉本志織 (NTT)	
〔企画 1〕 自動運転システムを支えるセンシング技術		5	為村成亨 (NHK)	
〔企画 2〕 地上デジタル放送による 4K8K 放送の研究開発動向		9	大槻知明 (慶大)	
〔企画 3〕 KIBME SESSION		4	高橋裕樹 (電通大)	
〔公開講演会〕 AR・VR 最前線		5	杉本志織 (NTT)	

(2) 2019年冬季大会

冬季大会実行委員会 (委員長 今井 亨) において、次のとおり企画開催いたしました。

会 期 2019年12月12日 (木)・13日 (金)

会 場 電気通信大学

一般講演 21セッション (107件)

企画講演 3セッション (17件) / フェロー記念講演: 4件 /

デモ展示 2セッション (18社)

参加者数 347名

懇親会 参加者数 83名

2019年冬季大会セッション，講演件数，座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	スポーツ情報処理	4	角田 貢（日体大）	
2	映像表現&CG（シミュレーションおよび質感）	7	小黒久史（凸版印刷）	
3	メディア工学（符号化）&フェロー記念講演	4	内藤 整（KDDI 総合研） 谷沢昭行（東芝）	
4	映像表現&CG（AR・MR）	7	新谷幹夫（東邦大）	
5	ストレージ&情報ディスプレイ	6	武者敦史（富士フイルム）	
6	メディア工学（コンピュータビジョン）	4	井田 孝（東芝）	
7	放送方式1	4	森住俊美（NTT）	
8	メディア工学（深層学習）	6	細野峻司（NTT）	
9	放送方式2	6	大内幹博（パナソニック）	
10	ヒューマンインフォメーション1	6	磯貝 愛（NTT）	
11	放送現業	6	斉藤 一（テレビ東京）	
12	センシング1	4	為村成亨（NHK）	
13	放送方式3／無線・光伝送	6	鈴村高幸（テレビ朝日）	
14	メディア工学（マルチメディア処理）&フェロー記念講演	5	八木伸行（東京都市大） 田良島周平（NTTコミュニケーションズ）	
15	センシング2 &フェロー記念講演	5	為村成亨（NHK）	
16	メディア工学（医療画像認識・システム）	4	金子敏充（東芝）	
17	センシング3	4	為村成亨（NHK）	
18	メディア工学（CV・PR 応用）	6	塚谷俊介（NTT）	
19	立体映像技術1 &フェロー記念講演	5	掛谷英紀（筑波大）	
20	ヒューマンインフォメーション2	6	清水俊宏（NHK）	
21	立体映像技術2 &アントレプレナー・エンジニアリング	6	掛谷英紀（筑波大）	
〔企画1〕スポーツ情報処理2020 そして、これから!?		4	角田 貢（日体大） 渡邊良亮（KDDI 総合研）	
〔企画2〕デモ展示：VR/ARを支える要素技術および応用技術		10	磯貝 愛（NTT）	
〔企画3〕いよいよ始まる、5G（高速・大容量、低遅延、多接続）が拓く新たな世界		4	菅野 勝（KDDI 総合研）	

[企画4] 2018年度各賞受賞企業によるデモ展示	8	菅野 勝 (KDDI 総合研)	
[企画5] IPを用いた番組制作技術	9	倉掛卓也 (NHK) 鈴木寿晃 (日本テレビ)	

5. 国際会議・講演会の開催（定款 第4条（4））

- ①＜企画セッション＞K I B M E (The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)
(年次大会併催)
会期 2019年8月30日
場所 東京工業大学 大岡山キャンパス
- ②第26回ディスプレイ国際ワークショップ (IDW2019)
会期 2019年11月27日～29日
場所 札幌コンベンションセンター
- ③日本工業技術振興協会共催
講演会「イベントカメラとイメージング技術」に関するパネル討論会
会期 2020年1月17日
場所 東京理科大学 森戸記念館

6. 支部活動報告

(1) 北海道支部

- ①支部大会 (2019年4月26日, 於. カナモトホール 2F 第3会議室)
- ②役職会
第1回 (2019年4月26日, 於. カナモトホール 2F 第3会議室)
第2回 (2019年10月24日, 於. NHK 札幌放送局 第3会議室)
第3回 (メール審議にて実施)
- ③放送技術研究会 (2019年7月25日～26日, 於. とかちプラザ 306 研修室)
講演件数: 13 件
- ④令和元年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会
(2019年11月9日, 於. 室蘭工業大学)
講演件数: 一般講演 149 件
参加者数: 262 名
特別講演
講師: 板倉賢一 (室蘭工業大学名誉教授・特任教授)
演題: 「石炭地下ガス化 (UCG) と可視化情報処理」
- ⑤技術セミナー2020 (2020年3月4日, 於. TKP 札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム 6B)
(※新型コロナウイルス感染拡大により開催中止)
テーマ: 「最新の映像技術の放送活用事例」
講演1 「放送局における AI 技術の活用事例」
後藤 淳 (NHK放送技術研究所)
講演2 「ソニーIP Live プロダクションシステムの導入事例とシステム構築の留意点」
青木 崇 (ソニービジネスソリューション (株))
講演3 「スポーツ中継技術の最新動向
～ラグビーワールドカップ 2019™における自由視点映像～」
伊達 厚 (キヤノン (株))

(2) 東北支部

- ①2019年度通常大会 (2019年5月22日, 於. ハーネル仙台)
- ②役職会
第1回幹事会 (2018年5月18日 於. ハーネル仙台)
第2回幹事会 (2019年6月10日 メール審議)
第3回幹事会 (2019年6月14日 メール審議)
第4回幹事会 (2019年7月9日 メール審議)
- ③施設見学会
(2019年9月27日, 於. 技術研究組合制御システムセキュリティセンター) 参加者 12 名
(東北情報通信懇談会, 東北総合通信局と共催)
- ④後援団体として参加 (2 回)
1) 「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2019」

(2019年7月14日 於、東北大学川内北キャンパス講義棟)

2)「サイエンスデイ AWARD 2019 表彰「映像情報メディア学会東北支部賞」

(2019年7月19日 於、東北大学サイエンスキャンパスホール)

※受賞した東北大学文学部言語学研究室には副賞としてNHK仙台拠点放送局の見学会を実施

(2019年9月30日 参加者：12名)

⑤電気関係学会東北支部連合大会 (2019年8月22日、23日、於、秋田大学 手形キャンパス)

一般講演：発表件数 267 件

特別講演会

講演「University4.0・Society5.0 実現への大阪大学の挑戦」

西尾章治郎 (大阪大学総長 情報処理学会第 29 代会長)

⑥放送技術研究会 (東北支部は特別講演を担当)

(2019年12月5日 於、アイーナ いわて県民情報交流センター)

特別講演「新 4 K 8 K を伝送する新しい放送システム (V P O F システム)」

⑦2019 年東北地区若手研究者研究発表会 (共催)

(2020年2月29日 於、仙台高等専門学校 名取キャンパス)

講演発表：講演 50 件、ポスター 71 件

(発表のうちの 2 件を、映像情報メディア学会東北支部の優秀賞として表彰)

※新型コロナの影響により発表会は中止、予稿集のみ発行

(3) 北陸支部

①2019 年度北陸支部大会 (2019年5月7日、於、ANA クラウンプラザホテル金沢)

②中部放送技術フォーラム (共催) (2019年5月15日～16日 於、NHK 名古屋放送局)

③2019 年度映像情報メディア学会北陸支部企画講演会 (2019年6月28日、於、金沢大学)

演題：中国シンセンでのハードウェア産業のエコシステム

講師：高須 正和 ((株) スイッチサイエンス)

参加者 80 名

④2019 年度電気関係学会北陸支部連合大会 (2019年8月31日～9月1日、於、石川高専)

⑤2019 年度映像情報メディア学会北陸支部企画講演会 (2020年2月20日、於、福井県国際交流会館)

演題 1：画像解析に基づくスポーツ中継での新映像表現および触覚情報提示

講師：高橋正樹 (NHK 放送技術研究所)

演題 2：永平寺町における地域課題解決の取組～自動走行と 5 G 実証について～

講師：山村 徹 (福井県永平寺町)

参加者 30 名

⑥北陸地区電気・電子・情報関係学科の成績優秀学生の表彰 (2020年3月1日)

10 校 10 名 (賞状と記念品の発送)

(4) 東海支部

①支部大会 (2019年4月23日、於、NHK名古屋)

②中部放送技術フォーラム (共催) (2019年5月15日～16日、於、NHK名古屋),

基調講演：1 件、特別講演：2 件、一般講演：26 件、参加者数：300 名

③電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 (2019年9月9日～10日、於、大同大学)

講演参加数：460 名、一般参加数：360 名

④支部第 1 回企画「総務省電波監視施設、愛知県警司令設備見学」(2019年8月30日)

参加者数：10 名

⑤支部第 2 回企画「東芝メモリ四日市工場見学」(2019年10月23日)

参加者数：10 名

⑥本部研究会 (共催) (2019年12月20日)

参加者数：100 名

⑦支部第 3 回企画「浜松ホトニクス中央研究所見学」(2019年2月14日)

参加者数：10 名

⑧令和元年度助成実績「東海地区音声関連研究室修士論文発表会」(2019年8月3日、於、静岡大学)

参加者数：140 名

(5) 関西支部

①2019 年度関西支部合同報告会・講演会 (2019年4月19日、於、中央電気倶楽部 5 階大ホール)

【講演会】

講演題目：「映像伝送に向けた高速無線通信の課題と発展」

講演者：相河 聡 (兵庫県立大学 大学院 工学研究科 教授)

参加者数：71 名

②電気関係学会関西連合大会 (2019年11月30日～12月1日、於、大阪市立大学 杉本キャンパス)

一般講演：14 部門 158 件/招待講演 27 件

本支部担当講演：G12 画像処理技術 一般講演 14 件，招待講演 1 件

G13 映像メディア関連技術 一般講演 6 件，招待講演 1 件

参加人数：552 名

聴講者数：事前登録 359 名（一般講演 191 名，大会参加 34 名，特別講演 1 名，ポスター 24 名，座 長 32 名，招待講演 28 名，実行委員・採点委員 17 名，大会・懇親会招待者 33 名）欠席 34 名
当日参加 80 名（大会参加 56 名，実行委員 12 名，展示・取材 11 名）

【ポスターシンポジウム】

テーマ：「関西からはばたく最新技術」

報告件数：30 件

【特別講演】

講演題目：「関西をイノベーション先進地域にするためには何が必要か～海外からの示唆～」

講演者：石川智久（（株）日本総合研究所 調査部，関西経済研究センター長）

参加人数：61 名

【見学会】「大阪市立大学人工光合成研究センター」

【懇親会】参加人数：96 名（於，大阪市立大学学術情報総合センター 10 階）

③専門講習会 1（2019 年 6 月 21 日，於，中央電気倶楽部）

テーマ：「地上放送の高度化技術の最新動向」

講演件数：6 件 参加者数：37 名（会員 17 名 非会員 15 名 学生会員 0 名 学生非会員 4 名）

④専門講習会 2（2019 年 10 月 11 日，於，中央電気倶楽部）

テーマ：「リアリティイメーシング新時代の幕開け～VR・AR・MR と 5G 通信の最新技術動向～」

講演件数：5 件 参加者数：32 名（会員 15 名 非会員 10 名 学生会員 6 名 学生非会員 1 名）

⑤専門講習会 3（2020 年 2 月 7 日，於，中央電気倶楽部）

テーマ：「放送のデジタルトランスフォーメーション～オフラインが無くなる世界の放送を考える～」

講演件数：6 件，参加者数：16 名（会員 11 名 非会員 5 名 学生会員 0 名 学生非会員 0 名）

⑥見学会（2019 年 10 月 25 日）

見学場所：読売テレビ放送（株）新社屋

参加者数：24 名

⑦准員および学生員のための講演会（2019 年 10 月 24 日～12 月 23 日）

開催回数：17 回

参加者数：2,052 名

⑧役職会（6 回）

第 1 回役職会（2019 年 4 月 19 日）

第 2 回役職会（2019 年 5 月 23 日）

第 3 回役職会（2019 年 7 月 31 日）

第 4 回役職会（2019 年 10 月 15 日）

第 5 回役職会（2019 年 12 月 10 日）

第 6 回役職会（2020 年 3 月 4 日 メール審議）

（6）中国支部

①2019 年度中国支部 支部大会（2019 年 4 月 10 日，於，広島テレビ）

②2019 年度（第 70 回）電気・情報関連学会中国支部連合大会第 1 回大会委員会
（2019 年 5 月 28 日，於，中国電力）

③2019 年度（第 70 回）電気・情報関連学会中国支部連合大会第 2 回大会委員会
（2019 年 6 月 21 日，於，中国電力）

④2019 年度支部長会議（2019 年 8 月 29 日，於，東京工業大学 大岡山キャンパス）

⑤2019 年度（第 70 回）電気・情報関連学会中国支部連合大会プログラム委員会
（2019 年 9 月 13 日 於，鳥取大学）

⑥2019 年度（第 70 回）電気・情報関連学会中国支部連合大会
（2019 年 10 月 26 日，於，鳥取大学）

参加者数：360 名，部門数：26，セッション：36，講演数：188 件

映像情報メディア学会から 8 件報告

⑦「電気記念日」打合せ（2019 年 11 月 17 日，於，中国電力）

⑧2019 年度（第 70 回）電気・情報関連学会中国支部連合大会第 3 回大会委員会

(2019年12月18日, 於: 中国電力)

⑨2019年度中国支部役員・運営委員会 (2019年12月11日, 於: NHK広島放送局)

⑩2020年度中国支部 支部長選挙 (2020年2月29日～3月23日 Web投票)

⑪「電気記念日」コロナウィルス対応のため中止 (2020年3月25日, 於: 中国電力)

(7) 四国支部

①通常大会・役職会 (2019年4月25日, 於: 東京第一ホテル松山)

②2019年度支部長会議 (2019年8月29日, 於: 東京工業大学 大岡山キャンパス)

③電気関係学会四国支部連合大会 (2019年9月21日, 於: 新居浜工業高等専門学校)

講演件数: 234件, 参加者数: 340名

実行委員会3回 (2019年5月25日, 8月7日～8月15日 (メール審議), 9月27日～10月4日

(メール審議), 12月7日 (於: 高松市)

講演件数: 245件, 参加者数: 405名

④放送技術研究会 (2019年9月6日 於: 愛媛大学・総合情報メディアセンター)

⑤マルチメディアストレージ研究会/磁気記録・情報ストレージ研究会 (2019年12月5日～12月6日, 於: 愛媛大学総合情報メディアセンター)

⑥四国コンテンツ映像フェスタ2019・協賛

(審査会・表彰式 2020年2月4日, 於: 高知県教育会館 高知城ホール) 四国支部は審査員と表彰プレゼンターを担当, 最優秀作品3件に副賞を贈呈

(8) 九州支部

①第1回支部役職会, 支部通常大会 (2019年5月27日 (月) 於: NHK福岡放送局)

②電気・情報関係学会九州支部連合大会 (2019年9月27日～28日, 於: 九州工業大学戸畑キャンパス)

講演件数: 508件 (前年度425件)

③放送技術研究会 (本部と共催)

(2019年1月23日～24日, 於: 鹿児島市 宝山ホール)

学生講演: 10件 一般講演: 8件 特別講演2件

【特別講演】

講演題目: 「未来を拓く知能ロボット・AI技術」

講演者: 渡邊 睦 (鹿児島大学)

特別講演: 「次世代地上TV放送の動向」

講演者: 金子 稔 (総務省)

【九州支部セッション】

講演題目: 「pythonというプログラミング言語と放送のAI利用」

講演者: 柳元 隆 (南日本放送)

講演題目: 「地域メディアとしての4Kドローン番組の取り組み～ケーブル局との連携をもとに～」

講演者: 亀田晃一 (南日本放送)

7. 支部別会員数 (2020年3月31日現在)

支部名	正会員	学生会員	合計	維持会員
北海道支部	58	0	59	5 (32口)
東北支部	68	1	69	16 (34口)
北陸支部	51	0	51	4 (8口)
東海支部	136	2	138	15 (49口)
関西支部	359	11	370	10 (89口)
中国支部	69	3	72	14 (24口)
四国支部	40	0	40	9 (12口)
九州支部	93	0	93	18 (37口)
支部合計	874	17	892	91 (285口)

注: 正会員には名誉会員を含める

注: 学生会員にはアカデミックパートナー学生を含まない

8. 図書の企画・刊行(定款 第4条(2)項)

編集委員会(編集長 八木伸行)において、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化を検討しました。今年度も、体系的(冊子)にはせず、このままの形態で学会HPにて公開することにしました。

9. ITEテストチャートの作成・頒布(定款 第4条(2))

ITEテストチャート委員会(委員長 井口和久)を中心に以下の事業を展開しました。

- (1) ITU-R SG-6 会合への寄与文書入力について
4K8K 標準動画像(A~C シリーズ)を Test Materials として ITU-R SG-6 に日本から寄与文書を発行したい旨 ARIB 側より依頼があり、超高精細・広色域標準動画像小委員会(主査 松田一朗)を中心に寄与文書作成の協力を行い、ITU-RSG6 7 月会合で「BT. 2245-7」として承認されました。
「BT. 2245-7」は下記 URL より全文ダウンロード可能です。
<https://www.itu.int/pub/R-REP-BT.2245>
- (2) 3次元マルチチャネル音響標準音源小委員会(主査 小野一穂)、ARIB と共同で3次元マルチチャネル音響標準音源Bシリーズの制作を検討してまいりました。提供音源については、よりエンターテインメント性の高い音源とするかダウンミックス時の標準音源とするかについて検討を進め、結果的にダウンミックス時の標準音源に絞って検討を進めました。2020 年度も引き続き継続検討いたします。
- (3) ハイビジョンシリーズおよび超高精細・広色域標準静止画像、超高精細・広色域標準動画像Aシリーズ/Bシリーズについては引き合いが続いています。超高精細・広色域 HDR 版標準動画像(C シリーズ)は頒布開始後、国内のみならず海外の大学・研究機関・メーカから引き合いがありました。

10. 丹羽高柳賞, 技術振興賞, 鈴木記念奨励賞, 映像情報メディア未来賞の選考と贈呈(定款 第4条(5))

[各賞受賞者氏名/敬称略]

<丹羽高柳賞>

(1) 功績賞

- ①受賞者: 川人祥二(静岡大学 電子工学研究所)
功 績: イメージセンサの高性能化・高機能化の先駆的研究と実用化

(2) 業績賞

- ①受賞者: 池田哲臣(NHK テクノロジーズ)
業 績: ハイビジョン番組素材伝送用無線伝送システムの研究開発および実用化への貢献

(3) 論文賞

- ①受賞者: Takahiro Ogawa・Kento Sugata・Ren Togo・Miki Haseyama (Hokkaido University)
題 目: Multi-classifier Decision: Integration of Multiple Brain Activity-based Classifications
- ②受賞者: Tsubasa Uchida・Taro Miyazaki・Makiko Azuma・Shuichi Umeda・Naoto Kato・Hiroyuki Kaneko・Yuko Yamanouchi (NHK),
Hideki Sumiyoshi・Nobuyuki Hiruma (NHK-E S)
題 目: Systems for Supporting Deaf People in Viewing Sports Programs by Using Sign Language Animation Synthesis
- ③受賞者: 西村仁志・川西康友・村瀬 洋(KDDI 総合研/名古屋大学), 田坂和之(KDDI 総合研)
題 目: 複数の相関フィルタを用いた見えの変化に頑健な物体 追跡

<鈴木記念奨励賞>

- ①受賞者: 森 翔平(NHK)
題 目: 8K 映像を活用した解像度を維持したズームを可能とする視聴技術の開発(年次 12C-1)
- ②受賞者: 白戸 諒(NHK)
題 目: IP リモート制作における軽圧縮に適した映像分割方式の画質に関する有効性の検討(年次 13D-3)
- ③受賞者: 渡邊良亮(KDDI 総合研)
題 目: 物体認識と背景差分を用いた高精度シルエット抽出手法(年次 31C-2)
- ④受賞者: 佐藤明彦(NHK)
題 目: ISDB-T と地上放送高度化方式の室内実験による伝送特性評価～芝実験試験局エリアで取得した伝搬路特性を用いた評価～(年次 32E-1)

現行 ISDB-T と地上放送高度化方式を LDM で多重する方式の統合復調時における伝送特性評価（冬季 14C-5）

⑤受賞者：松井文乃（東京工業大学）

題 目：ホログラムミラー型撮像システムにおけるマルチスペクトル画像を用いた背景成分除去（年次 33B-3）

⑥受賞者：野元貴史（東京工業大学）

題 目：偏光アレイカメラを用いた構造化光法による深度・法線の高速取得の基礎検証（冬季 21C-4）

<技術振興賞>

（1）進歩開発賞（現場運用部門）

①受賞者：総合コンテンツ管理システム検討プロジェクト 井村紀彦・伊東北斗（フジテレビ）

題 目：クラウドを活用した「総合コンテンツ管理システム」の構築

②受賞者：栗山和久・山本道雄（関西テレビ）、大山 悟（関西テレビソフトウェア）

題 目：ハイブリッドキャスト専用サーバーの開発

③受賞者：TBS もじこラボ 代表：小林祥子・稲川太郎（TBS テレビ）

題 目：WEB アプリ「もじこ」～音声認識 AI による文字起こしエディタ

④受賞者：「テレビ番組制作支援用 AI 顔認識システム」開発チーム

（日本テレビ、東芝、東芝デジタルソリューションズ）代表：加藤大樹（日本テレビ）

題 目：テレビ番組制作支援用 AI 顔認識システムの開発

（2）進歩開発賞（研究開発部門）

①受賞者：SFN フィールドアナライザ開発チーム（山口放送、日本通信機）

題 目：FM 同期放送用 SFN フィールドアナライザの開発と実用化

②受賞者：徐 建鋒・田坂和之（KDDI 総合研）、山口昌志（KDDI）

題 目：詳細行動認識技術

③受賞者：音声認識グループ 代表：三島 剛（NHK）、佐藤庄衛（NHK-E S）

題 目：迅速・正確な報道を支援する字起こしシステムの開発

（3）コンテンツ技術賞

①受賞者：伊藤正史（フジテレビ）

コンテンツ名：放送と連携した気軽に楽しめるマルチアングル映像コンテンツ～CMAF-ULL による超低遅延配信技術の実用化～

②受賞者：AI Video OCR Project（テレビ朝日、AI inside）

コンテンツ名：AI と Video OCR によるリアルタイム日本語変換システム

③受賞者：青木貴則・河村光彦（TBS テレビ）

コンテンツ名：第 61 回輝く！日本レコード大賞 LiDAR センサーを使ったジェネラティブグラフィックスの演出

④受賞者：安増高志・金城らんな（RKB 毎日放送）

コンテンツ名：バーチャルアナウンサー百道桃（ももちもも）を用いた番組制作

⑤受賞者：画像認識 AI 応用検討チーム（日本テレビ放送網）

コンテンツ名：画像認識 AI 技術によるフィールド競技のコンテンツ解析と制作

<映像情報メディア未来賞>

（1）フロンティア賞

①受賞者：視点追従インテグラル 3D 開発グループ（NHK）

題 目：視点追従インテグラル 3D ディスプレイの開発

（2）次世代テレビ技術賞

①受賞者：河村侑輝（NHK）

題 目：テレビ映像と同期した自由視点 AR コンテンツのリアルタイム伝送技術の開発

11. 名誉会員の推薦（定款 第4条（8））

本年度、第9回理事会において検討を行いましたが、内規に定める要件を満たす会員が存在しないため、第66回定時社員総会への名誉会員推挙は行わないこととしました。

1 2. フェロー認定証の贈呈（定款 第4条（5））

フェロー選定委員会（委員長 今井 亨）において、慎重に検討しました結果、次の4名の方々にフェローの称号を授与することとしました。

<フェロー認定者／五十音順>

池田哲臣（NHKテクノロジーズ）、甲藤二郎（早稲田大学）、村上和人（愛知県立大学）、柳原広昌（KDDI総合研究所）

1 3. 社会貢献活動（定款 第4条（7））

1）公開講演会（年次大会併催）

日時：8月29日（木）13時～16時40分

会場：東京工業大学 A会場

内容：AR・VR最前線

- （1）「4VRとARの事例紹介」 向井信彦（東京都市大学）
- （2）「物理エンジンと心のシミュレーションによる人のような存在感を持つバーチャルキャラクター」 長谷川晶一・三武裕玄（東京工業大学）
- （2）「インダイレクトビジョンによる潜在的映像の可視化」 久保尋之（奈良先端科学技術大学院大学）
- （4）「空中像や3D映像で実現する高臨場映像表示」 巻口誉宗（NTTサービスエボリューション研究所）
- （5）「心と身体未来」 北崎充晃（豊橋技術科学大学）

2）デモ展示：VR/ARを支える要素技術および応用技術（冬季大会時開催）

日時：12月12日（木）

会場：電気通信大学 アゴラ

- （1）「釣竿を用いたハプティックデバイスの開発」 内藤大樹（電通大）
- （2）「SMAスプリングを用いた体性感覚伝送システム」 中尾拓郎（慶大）
- （3）「どこでもディスプレイ」 橋本直己（電通大）
- （4）「奥行き方向に移動する空中像を提示する光学系の小型化」 大里柚衣（電通大）
- （5）「VRデモ「西日本豪雨災害」～報道用途でのVR活用事例～」 新井田利之・川喜田裕之・久富健介（NHK）
- （6）「テレビ映像と同期した自由視点ARのリアルタイム伝送技術」 河村侑輝・今村浩一郎（NHK）
- （7）「ARデモ「飛び出す筋肉体操」」 川喜田裕之（NHK）
- （8）「ダイナミックフィールド3次元動きセンシング技術」 能登 肇（NTT）
- （9）「感性に働きかける触覚提示技術」 野嶋琢也（電通大）
- （10）「VRを活用した自衛消防隊の役割理解コンテンツ」 石川大樹・成松和輝（理経）、村上正浩・小林崇浩・関 俊介・福田一帆（工学院大）

3）2018年度各賞受賞企業によるデモ展示（冬季大会時開催）

日時：12月13日（金）

会場：電気通信大学 アゴラ

- （1）画像認識AIを用いた番組応用と展開
画像認識AI応用検討チーム（日本テレビ、東芝、東芝デジタルソリューションズ）
- （2）衛星回線の高効率化・双方向通信・運用自動化を実現した新SNGシステム（F・SAT）
次世代F・SAT検討プロジェクト 秋信真太郎・富吉政貴・吉村理希（フジテレビ）
- （3）フェンシング剣先軌跡可視化技術「ソードトレーサー」の開発
ソードトレーサー開発グループ 代表者：高橋正樹（NHK）
- （4）5G網を利用した自由視点映像リアルタイム配信技術
野中敬介・渡邊良亮（KDDI総合研究所）、塚本航平（KDDI）
- （5）ソーシャルメディアの活用技術とその番組応用
宮崎太郎・牧野仁宣・武井友香（NHK）
- （6）音声認識を使用したAIによる自動リアルタイム字幕“AIボン”の開発
藤井祐介・木村洋輔（テレビ朝日）
- （7）ライブ音楽番組におけるフレアプラスレンズを用いた映像効果～2018FNS歌謡祭における活用～
上田容一郎（フジテレビ）
- （8）地上デジタルテレビジョン放送高度化方式の開発
地上放送高度化方式研究開発グループ 代表：土田 健一（NHK）

14. 支部長会議（定款 第4条（8））

会期 2019年8月29日

会場 東京工業大学 大岡山キャンパス

15. 通常総会の開催（定款 第4条（8））

（1）第65回定時社員総会

会期 2019年5月31日

会場 機械振興会館

（2）第66回定時社員総会の準備

2020年5月29日に予定し、その準備を行いました。

16. 2019年度理事会の開催（定款 第4条（8））

本年度は、理事会10回（うち新型コロナウイルス感染予防のためメール審議2回・リモート開催1回，うち代表代議員出席3回），臨時理事会1回を開催し，各事業を積極的に推進するための検討を行いました。

以上

2019年度決算報告書

自 2019年 4月 1日
至 2020年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

貸借対照表

2020年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	37,246,325	27,515,167	9,731,158
未収会費	2,349,000	2,879,000	△ 530,000
未収金	3,394,715	4,136,717	△ 742,002
棚卸資産	11,728,614	11,728,614	0
貯蔵品	135,000	119,000	16,000
有価証券	5,000,000	5,000,000	0
立替金	26,213	41,350	△ 15,137
仮払金	417,902	408,240	9,662
貸倒引当金	△ 65,100	△ 59,100	△ 6,000
流動資産合計	60,232,669	51,768,988	8,463,681
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	12,515,414	13,447,727	△ 932,313
選奨基金	16,326,850	16,544,073	△ 217,223
啓発普及基金	14,000,000	14,000,000	0
研究・特別企画基金	26,597,768	26,597,768	0
設備拡充等特定資産	0	17,808,687	△ 17,808,687
記念事業特定資産	36,196,195	36,212,411	△ 16,216
会誌活性化等特定資産	33,871,500	35,871,500	△ 2,000,000
事務局設備特定資産	860,310	860,310	0
鈴木記念賞特定資産	1,794,511	1,821,079	△ 26,568
発展事業基金	6,519,158	6,124,500	394,658
特定資産合計	148,681,706	169,288,055	△ 20,606,349
(3) その他固定資産			
ソフトウェア工ア	689,486	1,062,278	△ 372,792
什器備用品	1	1	0
保証金	1,714,800	1,714,800	0
その他固定資産合計	2,404,287	2,777,079	△ 372,792
固定資産合計	154,085,993	175,065,134	△ 20,979,141
資産合計	214,318,662	226,834,122	△ 12,515,460
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	779,607	1,058,396	△ 278,789
前受会費	788,500	802,600	△ 14,100
預り金	413,268	326,181	87,087
仮賞与引当金	2,000	0	2,000
未払法人税等	2,566,070	2,560,270	5,800
未払消費税等	489,100	2,877,600	△ 2,388,500
	416,200	504,000	△ 87,800
流動負債合計	5,454,745	8,129,047	△ 2,674,302
2. 固定負債			
退職給付引当金	14,987,448	31,757,605	△ 16,770,157
固定負債合計	14,987,448	31,757,605	△ 16,770,157
負債合計	20,442,193	39,886,652	△ 19,444,459
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
(うち特定資産への充当額)	△ 8,000,000	△ 8,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	△ 16,741,000	△ 18,000,000	1,259,000
正味財産合計	193,876,469	186,947,470	6,928,999
負債及び正味財産合計	214,318,662	226,834,122	△ 12,515,460

貸借対照表内訳表

2020年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	実施		
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	-75,889,116	-14,432,825	-1,112,336
未収会費	0	0	0
未収資産	861,488	0	0
棚卸蔵品	0	0	0
貯蓄証	135,000	0	0
有価証券	0	0	0
立替金	0	0	0
仮払金	0	0	0
他会計へ振出	19,339,760	295,588	0
貸倒引当金	0	0	0
流動資産合計	-55,552,868	-14,137,237	-1,112,336
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	0	0	0
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	0	0	0
選奨基金	-15,000,000	0	0
啓発普及基金	0	0	0
研究・特別企画基金	0	26,597,768	0
記念事業特定資産	0	0	0
会誌活性化等特定資産	33,871,500	0	0
事務局設備特定資産	0	0	0
鈴木記念賞特定金	0	0	0
発展事業基金	0	0	0
特定資産合計	18,871,500	26,597,768	0
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	118,416	0	0
什器備品	0	0	0
保証金	0	0	0
その他固定資産合計	118,416	0	0
固定資産合計	18,989,916	26,597,768	0
資産合計	-36,562,952	12,460,531	-1,112,336
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	14,938	140,562	0
前受会費	0	0	0
預り金	2,275	0	0
仮受金	0	2,000	0
賞与引当金	167,460	24,016	0
未払法人税等	0	0	0
他会計より繰入	142,353,746	54,072,829	1,137
未払消費税等	0	0	0
流動負債合計	142,538,419	54,239,407	1,137
2. 固定負債			
退職給付引当金	-1,508,478	958,406	0
固定負債合計	-1,508,478	958,406	0
負債合計	141,029,941	55,197,813	1,137
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
2. 一般正味財産	-168,737,645	-41,622,709	-1,113,116
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	-177,592,893	-42,737,282	-1,113,473
負債及び正味財産合計	-36,562,952	12,460,531	-1,112,336

事業

表彰、コンクール	共通	小 計	技術報告関係	図書関係	テストチャート関係
-3,951,273	31,884,255	-63,501,295	6,711,770	546,398	93,789,056
0	0	0	0	0	0
0	0	861,488	883,200	0	1,395,462
0	0	0	0	0	10,960,329
0	0	135,000	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
553,475	0	20,188,823	17,198,850	0	0
0	0	0	0	0	0
-3,397,798	31,884,255	-42,315,984	24,793,820	546,398	106,144,847
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
31,326,850	0	16,326,850	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	26,597,768	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	33,871,500	0	0	0
0	0	0	0	0	0
3,709,261	-1,914,750	1,794,511	0	0	0
0	0	0	0	0	0
35,036,111	-1,914,750	78,590,629	0	0	0
0	0	118,416	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	118,416	0	0	0
35,036,111	-1,914,750	78,709,045	0	0	0
31,638,313	29,969,505	36,393,061	24,793,820	546,398	106,144,847
5,973	0	161,473	143,060	0	92,837
0	0	0	0	0	0
0	0	2,275	0	0	0
0	0	2,000	0	0	0
42,029	0	233,505	0	0	0
0	0	0	0	0	0
47,677,411	31,152,627	275,257,750	-626,721	0	19,170
0	70,754	70,754	0	0	0
47,725,413	31,223,381	275,727,757	-483,661	0	112,007
1,095,038	0	544,966	1,279,002	0	0
1,095,038	0	544,966	1,279,002	0	0
48,820,451	31,223,381	276,272,723	795,341	0	112,007
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-27,152,316	-1,253,876	-239,879,662	33,266,648	546,398	87,235,801
0	0	0	0	0	0
-17,182,138	-1,253,876	-239,879,662	23,998,479	546,398	106,032,840
31,638,313	29,969,505	36,393,061	24,793,820	546,398	106,144,847

その他会計(収)					
会誌頒布	会誌50CD-ROM	会誌関係	共通	小 計	年次大会
11,860,490	29,952	0	-45,850,158	67,087,508	13,944,811
0	0	0	0	0	0
70,905	0	0	0	2,349,567	103,860
0	768,285	0	0	11,728,614	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	1,434,669	18,633,519	11,000
0	0	0	-56,000	-56,000	0
11,931,395	798,237	0	-44,471,489	99,743,208	14,059,671
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
11,931,395	798,237	0	-44,471,489	99,743,208	14,059,671
0	0	0	0	235,897	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	609,525	609,525	0
0	0	0	419,100	419,100	0
2,786,420	0	592,076	21,758,757	24,529,702	81,703
0	0	0	299,664	299,664	0
2,786,420	0	592,076	23,087,046	26,093,888	81,703
0	0	0	3,716,505	4,995,507	0
0	0	0	3,716,505	4,995,507	0
2,786,420	0	592,076	26,803,551	31,089,395	81,703
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
9,026,104	-797,755	-592,076	-60,031,307	68,653,813	18,111,407
0	0	0	0	0	0
9,144,975	798,237	-592,076	-71,275,040	68,653,813	13,977,968
11,931,395	798,237	0	-44,471,489	99,743,208	14,059,671

冬季大会	講習会関係	SMPTE日本会合	国際講演会	講演会	講演会(支部)
5,478,711	713,379	-29,052	261,224	260,784	-2,648,104
0	0	0	0	0	0
79,800	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
576	0	0	0	0	0
1,137	0	0	0	-4,370	0
0	0	0	0	0	0
5,560,224	713,379	-29,052	261,224	256,414	-2,648,104
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
5,560,224	713,379	-29,052	261,224	256,414	-2,648,104
0	0	0	0	0	671
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-31,962	0	-998,255	90	60,942	0
0	0	0	0	0	0
-31,962	0	-998,255	90	60,942	671
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-31,962	0	-998,255	90	60,942	671
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
5,599,085	713,379	979,571	261,134	199,842	-2,715,211
0	0	0	0	0	0
5,592,186	713,379	969,203	261,134	195,472	-2,648,775
5,560,224	713,379	-29,052	261,224	256,414	-2,648,104

その他会計(公)

連合大会(支部)	講習会(支部)	見学会(支部)	共通(支部)	年次大会(支部)	科学博物館展示
-3,606,144	1,076,263	-901,292	-564,076	-99,420	-206,954
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
4,370	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-3,601,774	1,076,263	-901,292	-564,076	-99,420	-206,954
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-3,601,774	1,076,263	-901,292	-564,076	-99,420	-206,954
0	10,110	0	166,210	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-4,370	0	0	0	0	720
0	0	0	0	0	0
-4,370	10,110	0	166,210	0	720
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-4,370	10,110	0	166,210	0	720
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-7,752,464	1,135,651	-898,214	-736,442	-99,420	-207,674
0	0	0	0	0	0
-3,597,404	1,066,153	-901,292	-730,286	-99,420	-207,674
-3,601,774	1,076,263	-901,292	-564,076	-99,420	-206,954

共通	小 計	法人会計			内部 一般事業
		法人会計	法人会計(支部)	小 計	
-8,017,118	5,663,012	17,825,044	10,172,056	27,997,100	0
0	0	2,349,000	0	2,349,000	0
0	183,660	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	5,000,000	0	5,000,000	0
0	0	26,213	0	26,213	0
0	576	417,326	0	417,326	0
2,879,401	2,891,538	131,341,412	0	131,341,412	-173,055,292
0	0	-9,100	0	-9,100	0
-5,137,717	8,738,786	156,949,895	10,172,056	167,121,951	-173,055,292
0	0	3,000,000	0	3,000,000	0
0	0	3,000,000	0	3,000,000	0
0	0	12,515,414	0	12,515,414	0
0	0	0	0	0	0
0	0	14,000,000	0	14,000,000	0
0	0	0	0	0	0
0	0	36,196,195	0	36,196,195	0
0	0	0	0	0	0
0	0	860,310	0	860,310	0
0	0	0	0	0	0
0	0	6,519,158	0	6,519,158	0
0	0	70,091,077	0	70,091,077	0
0	0	571,070	0	571,070	0
0	0	1	0	1	0
0	0	1,714,800	0	1,714,800	0
0	0	2,285,871	0	2,285,871	0
0	0	75,376,948	0	75,376,948	0
-5,137,717	8,738,786	232,326,843	10,172,056	242,498,899	-173,055,292
0	176,991	204,371	875	205,246	0
0	0	788,500	0	788,500	0
0	0	410,993	0	410,993	0
0	0	0	0	0	0
25,725	25,725	1,697,315	0	1,697,315	0
0	0	70,000	0	70,000	0
20,748,255	19,857,123	-146,593,653	4,370	-146,589,283	-173,055,292
45,782	45,782	0	0	0	0
20,819,762	20,105,621	-143,422,474	5,245	-143,417,229	-173,055,292
-228,146	-228,146	9,675,121	0	9,675,121	0
-228,146	-228,146	9,675,121	0	9,675,121	0
20,591,616	19,877,475	-133,747,353	5,245	-133,742,108	-173,055,292
0	0	0	0	0	0
0	0	-8,000,000	0	-8,000,000	0
-25,729,333	-11,138,689	366,074,196	10,166,811	376,241,007	0
0	0	-16,741,000	0	-16,741,000	0
-25,729,333	-11,138,689	366,074,196	10,166,811	376,241,007	0
-5,137,717	8,738,786	232,326,843	10,172,056	242,498,899	-173,055,292

消去	
小 計	合 計
0	37,246,325
0	2,349,000
0	3,394,715
0	11,728,614
0	135,000
0	5,000,000
0	26,213
0	417,902
-173,055,292	0
0	-65,100
-173,055,292	60,232,669
0	3,000,000
0	3,000,000
0	12,515,414
0	16,326,850
0	14,000,000
0	26,597,768
0	36,196,195
0	33,871,500
0	860,310
0	1,794,511
0	6,519,158
0	148,681,706
0	689,486
0	1
0	1,714,800
0	2,404,287
0	154,085,993
-173,055,292	214,318,662
0	779,607
0	788,500
0	413,268
0	2,000
0	2,566,070
0	489,100
-173,055,292	0
0	416,200
-173,055,292	5,454,745
0	14,987,448
0	14,987,448
-173,055,292	20,442,193
0	0
0	-8,000,000
0	193,876,469
0	-16,741,000
0	193,876,469
-173,055,292	214,318,662

正味財産増減計算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	38,857	411	38,446
基本財産受取利	38,857	411	38,446
特定資産運用益	961,332	707,930	253,402
特定資産受取利	961,332	707,930	253,402
受取入金会金	28,500	38,000	-9,500
受取入金会金	28,500	38,000	-9,500
受取会費	52,710,600	55,528,200	-2,817,600
正学持会会費	28,048,100	30,173,200	-2,125,100
維持特殊会会費	22,862,500	23,575,000	-712,500
アガミッハートナー	840,000	860,000	-20,000
アガミッハートナー	960,000	920,000	40,000
事業収益	36,842,693	37,420,460	-577,767
会誌関係係布収入	5,603,682	6,171,660	-567,978
会誌関係係布収入	899,743	931,744	-32,001
年次大会収入	2,817,770	2,713,370	104,400
冬季大会収入	1,590,300	1,355,700	234,600
講習会収入	877,500	715,000	162,500
講演会収入	10,000	25,000	-15,000
技術報告収入	6,949,625	7,516,580	-566,955
図書関係収入	22,680	0	22,680
テストチャート収入	18,071,393	13,840,700	4,230,693
連合大会金等	0	4,150,706	-4,150,706
受取補助金等	0	360,000	-360,000
石川県・金沢市補助金	0	360,000	-360,000
受取寄付金	473,000	354,000	119,000
発展事業寄付金	473,000	354,000	119,000
雑収益	2,766,971	1,025,320	1,741,651
バックナンバー収入	104,433	126,455	-22,022
受取利息	471	419	52
受雑収会繰入金料	2,225,273	573,343	1,651,930
連合大会繰入金料	273,930	167,855	106,075
経常収益計	93,821,953	95,434,321	-1,612,368
(2) 経常費用			
事業費	81,366,669	65,268,139	16,098,530
給料手当	21,981,376	16,423,178	5,558,198
派遣賃金	855,480	1,087,397	-231,917
退職給付費用	20,193,944	1,228,464	18,965,480
福利厚生費	3,202,272	2,231,854	970,418
旅費交通費	360,851	1,079,799	-718,948
通信運搬費	3,466,790	3,495,837	-29,047
消耗什器備品費	0	19,033	-19,033
消耗品費	1,284,371	1,160,031	124,340
修繕費	290,104	298,686	-8,582
印刷製本費	13,285,837	13,613,811	-327,974
賃借料	5,263,354	5,580,343	-316,989
支払リース料	524,783	588,594	-63,811
諸謝金	758,719	1,030,245	-271,526
租税公課	1,014,153	1,014,917	-764
会費	957,619	2,703,767	-1,746,148
支払負担金	931,936	1,146,577	-214,641
支払助成金	99,735	60,000	39,735
支広告伝費	296,639	436,820	-140,181
委託書費	4,971,346	8,008,252	-3,036,906
図書費	848,054	837,394	10,660
雑費	160,214	215,548	-55,334
法税等	419,100	2,807,600	-2,388,500
減価償却費	199,992	199,992	0

管	理	費	23,148,085	29,864,118	-6,716,033
給	料	手	9,356,912	14,726,388	-5,369,476
派	遣	賃	428,370	433,984	-5,614
退	職	給	517,899	712,885	-194,986
福	利	厚	1,223,945	2,081,744	-857,799
旅	費	交	348,756	131,705	217,051
通	信	運	113,571	111,921	1,650
消	耗	品	150,364	77,470	72,894
印	刷	製	0	16,899	-16,899
賃		借	1,521,086	1,492,956	28,130
支	払	リ	303,825	340,766	-36,941
諸		謝	0	11,137	-11,137
諸		会	154,504	202,913	-48,409
租	税	公	111,066	97,694	13,372
会		議	884,521	1,005,512	-120,991
支	払	担	50,857	0	50,857
広	告	伝	0	98,439	-98,439
委		託	4,868,602	5,307,433	-438,831
図		書	0	3,000	-3,000
雜			152,838	148,959	3,879
W	e	b	1,965,382	1,858,150	107,232
会	員	管	674,445	594,307	80,138
発	展	事	78,342	148,494	-70,152
法	人	業	70,000	70,000	0
減	価	償	172,800	191,362	-18,562
経	常	費	104,514,754	95,132,257	9,382,497
評	価	損	-10,692,801	302,064	-10,994,865
評	価	損	0	0	0
当	期	経	-10,692,801	302,064	-10,994,865
2.	経	常			
(1)	経	常			
貸	倒	引	59,100	161,800	-102,700
退	職	給	18,741,000	0	18,741,000
経	常	外	18,800,100	161,800	18,638,300
(2)	経	常			
貸	倒	引	65,100	59,100	6,000
貸	倒	損	1,107,400	3,187,100	-2,079,700
賞	与	引	5,800	7,135	-1,335
経	常	外	1,178,300	3,253,335	-2,075,035
当	期	経	17,621,800	-3,091,535	20,713,335
当	期	一	6,928,999	-2,789,471	9,718,470
一	般	正	186,947,470	189,736,941	-2,789,471
一	般	正	193,876,469	186,947,470	6,928,999
II	指	定			
指	定	正	0	0	0
指	定	正	0	0	0
指	定	正	0	0	0
III	正	味	193,876,469	186,947,470	6,928,999

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小 計	法人会計			内部消去		合 計
	法人会計	法人会計(支部)	小 計	一般事業	小 計	
0	38,857	0	38,857	0	0	38,857
0	38,857	0	38,857	0	0	38,857
0	442,535	0	442,535	0	0	961,332
0	442,535	0	442,535	0	0	961,332
0	28,500	0	28,500	0	0	28,500
0	28,500	0	28,500	0	0	28,500
0	52,710,600	0	52,710,600	0	0	52,710,600
0	28,048,100	0	28,048,100	0	0	28,048,100
0	22,862,500	0	22,862,500	0	0	22,862,500
0	840,000	0	840,000	0	0	840,000
0	960,000	0	960,000	0	0	960,000
5,295,570	0	6,486,912	6,486,912	-6,486,912	-6,486,912	36,842,693
0	0	0	0	0	0	5,603,682
0	0	0	0	0	0	899,743
2,817,770	0	0	0	0	0	2,817,770
1,590,300	0	0	0	0	0	1,590,300
877,500	0	0	0	0	0	877,500
10,000	0	0	0	0	0	10,000
0	0	0	0	0	0	6,949,625
0	0	0	0	0	0	22,680
0	0	0	0	0	0	18,071,393
0	0	6,465,000	6,465,000	-6,465,000	-6,465,000	0
0	0	21,912	21,912	-21,912	-21,912	0
0	473,000	0	473,000	0	0	473,000
0	473,000	0	473,000	0	0	473,000
299,330	4,299,640	24	4,299,664	-2,335,798	-2,335,798	2,766,971
17,400	0	0	0	0	0	104,433
0	447	24	471	0	0	471
8,000	1,963,395	0	1,963,395	0	0	2,225,273
0	2,335,798	0	2,335,798	-2,335,798	-2,335,798	0
273,930	0	0	0	0	0	273,930
0	0	0	0	0	0	162,864
5,594,900	57,993,132	6,486,936	64,480,068	-8,822,710	-8,822,710	93,821,953
8,494,016	0	0	0	-21,912	-21,912	81,366,669
1,060,157	0	0	0	0	0	21,981,376
260,265	0	0	0	0	0	855,480
2,833,131	0	0	0	0	0	20,193,944
92,452	0	0	0	0	0	3,202,272
290,808	0	0	0	0	0	360,851
101,467	0	0	0	0	0	3,466,790
89,369	0	0	0	-21,912	-21,912	1,284,371
176,104	0	0	0	0	0	290,104
531,980	0	0	0	0	0	13,285,837
707,089	0	0	0	0	0	5,263,354
40,161	0	0	0	0	0	524,783
428,419	0	0	0	0	0	758,719
90,612	0	0	0	0	0	1,014,153
614,681	0	0	0	0	0	957,619
866,016	0	0	0	0	0	931,936
0	0	0	0	0	0	99,735
0	0	0	0	0	0	296,639
286,563	0	0	0	0	0	4,971,346
0	0	0	0	0	0	848,054
24,742	0	0	0	0	0	160,214
0	0	0	0	0	0	419,100
0	0	0	0	0	0	199,992
0	26,623,784	5,325,099	31,948,883	-8,800,798	-8,800,798	23,148,085
0	9,356,912	0	9,356,912	0	0	9,356,912
0	428,370	0	428,370	0	0	428,370
0	517,899	0	517,899	0	0	517,899
0	1,223,945	0	1,223,945	0	0	1,223,945
0	33,766	314,990	348,756	0	0	348,756
0	55,815	57,756	113,571	0	0	113,571
0	149,929	435	150,364	0	0	150,364
0	1,521,086	0	1,521,086	0	0	1,521,086
0	303,825	0	303,825	0	0	303,825
0	154,504	0	154,504	0	0	154,504
0	111,066	0	111,066	0	0	111,066
0	621,136	263,385	884,521	0	0	884,521
0	17,057	33,800	50,857	0	0	50,857
0	2,578,971	2,289,631	4,868,602	0	0	4,868,602
0	123,534	29,304	152,838	0	0	152,838
0	1,965,382	0	1,965,382	0	0	1,965,382
0	674,445	0	674,445	0	0	674,445
0	6,465,000	0	6,465,000	-6,465,000	-6,465,000	0
0	78,342	0	78,342	0	0	78,342
0	0	2,335,798	2,335,798	-2,335,798	-2,335,798	0
0	70,000	0	70,000	0	0	70,000
0	172,800	0	172,800	0	0	172,800
8,494,016	26,623,784	5,325,099	31,948,883	-8,822,710	-8,822,710	104,514,754
-2,899,116	31,369,348	1,161,837	32,531,185	0	0	-10,692,801
0	0	0	0	0	0	0
-2,899,116	31,369,348	1,161,837	32,531,185	0	0	-10,692,801
0	7,200	0	7,200	0	0	59,100
2,811,150	0	0	0	0	0	18,741,000
2,811,150	7,200	0	7,200	0	0	18,800,100
0	9,100	0	9,100	0	0	65,100
0	1,107,400	0	1,107,400	0	0	1,107,400
0	5,800	0	5,800	0	0	5,800
0	1,122,300	0	1,122,300	0	0	1,178,300
2,811,150	-1,115,100	0	-1,115,100	0	0	17,621,800
-87,966	30,254,248	1,161,837	31,416,085	0	0	6,928,999
-11,050,723	335,819,948	9,004,974	344,824,922	0	0	186,947,470
-11,138,689	366,074,196	10,166,811	376,241,007	0	0	193,876,469
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
-11,138,689	366,074,196	10,166,811	376,241,007	0	0	193,876,469

財産目録

2020年 3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	44,704
預金	当座預金		9,843,218
	みずほ新橋		7,358,288
	みずほ青山		2,484,930
	普通預金		22,854,856
	みずほ新橋①		3,109,952
	みずほ新橋②		322,634
	みずほ支部		-622,389
	三井住友銀行		11,171,378
	三菱UFJ信託		2,298,639
	住友信託銀行		1,512,586
	北海道支部		347,241
	東北支部		104,503
	関西支部		548,900
	東海支部		369,749
	中国支部		239,389
	九州支部		256,772
	四国支部		347,401
	北陸支部		68,640
	大和証券		2,779,461
	郵便振替貯金		4,172,499
	郵便振替貯金①		2,860,572
	郵便貯金・普通		1,311,927
	定期積金		331,048
	みずほ定期		331,048
未収会費			2,349,000
入会金			2,500
正学会員会費			2,296,500
維持会員会費			50,000
未収金			3,394,715
会誌・広告			40,040
技報予約			804,600
技報別刷			67,900
技報バックナンバー			10,700
テストチャート			1,395,462
会誌・別刷			7,560
年次大会			103,860
冬季大会			79,800
MTA			228,960
和文論文掲載			584,928
その他			70,905
棚卸資産			11,728,614
テストチャート完成品			10,960,329
会誌50CD-ROM			768,285
貯蔵品			135,000
有価証券			5,000,000
立替金			26,213
その他			26,213
仮払金			417,902
70周年記念事業			16,216
その他			401,686
貸倒引当金			-65,100
流動資産合計			60,232,669
(固定資産)			
基本財産			
基本財産			3,000,000
大和証券			3,000,000
特定資産			148,681,706
退職給付引当資産			12,515,414
みずほ銀行支部			979
大和証券			5,000,000
三菱UFJ信託普通			3,564,680
みずほ新橋①			1,259,000
住友信託銀行			382,249
三井住友銀行			2,308,506
選奨基金			16,326,850
みずほ銀行当座			1,326,850
大和証券			15,000,000
啓発普及基金			14,000,000
みずほ銀行①			4,000,000
大和証券			10,000,000
研究・特別企画基金			26,597,768

	大和証券			20,000,000
	住友信託			4,253,683
	みずほ新橋②			2,344,085
	記念事業特定資			36,196,195
	郵便振替口座			8,513,841
	三井住友銀行			2,682,354
	大和証券			25,000,000
	会誌活性化等特定資産			33,871,500
	大和証券			33,000,000
	三菱UFJ信託普通			517,922
	みずほ青山当座			353,578
	事務局設備特定資産			860,310
	三菱UFJ信託			860,310
	鈴木記念賞特定			1,794,511
	みずほ当座			375,245
	三井住友			1,419,266
	発展事業基金			6,519,158
	みずほ銀行①			416,570
	郵便振替口座			6,102,588
その他固定資産				2,404,287
	ソフトウェア			689,486
	什器備品			1
	保証金			1,714,800
固定資産合計				154,085,993
資産合計				214,318,662
(流動負債)				
	未払金			779,607
	会誌作成費			24,376
	会誌別刷			2,882
	テストチャート			92,837
	会誌編集			110,770
	調査研究			17,472
	技報作成費			115,500
	技報発送費			27,560
	表彰・コンクール			5,973
	Web-IT・会員管理			119,878
	システム			
	支部			177,866
	その他			84,493
	前受会費			788,500
	入会金			1,500
	正学会員会費			287,000
	維持会員会費			500,000
	預り金			413,268
	源泉所得税預り金			188,668
	住民税預り金			174,600
	財形預り金			50,000
	仮受金			2,000
	その他			2,000
	賞与引当金			2,566,070
	未払法人税等			489,100
	未払消費税等			416,200
流動負債合計				5,454,745
(固定負債)				
	退職給付引当金			14,987,448
固定負債合計				14,987,448
負債合計				20,442,193
正味財産				193,876,469

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当すべき事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・無形固定資産・一括償却資産
定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、期末債権残高に一定率
を乗じて算出した額を計上している。

賞与引当金・・・翌期支払賞与の当該期間に相当する金額を計上している。

退職給付引当金・・・期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000	0	0	3,000,000
小 計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
選 奨 基 金	16,544,073	15,000,000	15,217,223	16,326,850
退 職 給 付 引 当 資 産	13,447,727	47,808,687	48,741,000	12,515,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	20,000,000	20,000,000	26,597,768
発 展 事 業 基 金	6,124,500	473,000	78,342	6,519,158
特定資産支出				
設 備 拡 充 等 特 定 資 産	17,808,687	0	17,808,687	0
記 念 事 業 特 定 資 産	36,212,411	40,000,000	40,016,216	36,196,195
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	35,871,500	35,000,000	37,000,000	33,871,500
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,821,079	0	26,568	1,794,511
小 計	169,288,055	158,281,687	178,888,036	148,681,706
合 計	172,288,055	158,281,687	178,888,036	151,681,706

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000		3,000,000	
小 計	3,000,000		3,000,000	
特定資産				
選 奨 基 金	16,326,850		16,326,850	
退 職 給 付 引 当 資 産	12,515,414			12,515,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000		14,000,000	
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768		26,597,768	
発 展 事 業 基 金	6,519,158		6,519,158	
特定資産支出				
設 備 拡 充 等 特 定 資 産	0		0	
記 念 事 業 特 定 資 産	36,196,195		36,196,195	
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	33,871,500		33,871,500	
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310		860,310	
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,794,511		1,794,511	
小 計	148,681,706		136,166,292	12,515,414
合 計	151,681,706		139,166,292	12,515,414

5. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	1,062,278	372,792	689,486
そ の 他 工 具 備 品	1	0	1
合 計	1,062,279	372,792	689,487

6. 重要な後発事象

該当なし。

監 査 報 告

2020年5月12日

一般社団法人 映像情報メディア学会

会 長 相 澤 清 晴 殿

一般社団法人 映像情報メディア学会

監 事 平 和 樹



監 事 三 嶋 英 俊



私たち監事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録等の監査を実施しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

2020年度事業計画

1 はじめに（担当：松田総務担当理事）

1950年に本会が旧名称のテレビジョン学会として創設されてから70年目の記念すべき年にあたる2020年度は、COVID-19と名付けられた新型コロナウイルス感染症が世界的な大流行に発展し、その余波を受けて今夏の目玉イベントとなるはずであった東京オリンピック・パラリンピックの開催延期も決定するなど、歴史に残る波乱の幕開けとなりました。わが国においても緊急事態宣言発令によって人々の物理的な移動、交流が大きく制限される中、正確かつ迅速な情報伝達手段としての放送メディアはもちろん、テレワークやオンライン教育、遠隔医療といった生活基盤として、映像情報メディアに関連した技術の重要性が再認識されるようになりました。このような状況の中、映像情報メディア全般の技術的議論の場を提供し、将来の発展を後押しする存在として、本会が果たすべき役割は益々増大しています。

学会創立70周年の節目となる本年度は、会誌、論文誌の発行や研究会の開催といったこれまでの事業に加え、この10年間の振り返りと今後10年間の展望を考える学会誌の記念特集記事や、冬季大会を兼ねた創立70周年記念大会の期間中に著名な講師陣を招いた講演会を企画するなど、本会が新たな一步を踏み出すきっかけとなるような新規事業を計画しています。一方、オリンピック関連のイベントとの競合を避けるため、夏季の年次大会を創立70周年記念大会に統合することを前提として今年度に限り開催を取りやめることといたしました。新型コロナウイルスの影響により他学会が夏季の大会の開催中止あるいは延期の決断を迫られる中、結果として本会の大会事業への影響は現時点で軽微なものとなっています。しかしながら、昨年度末からの研究会や各種委員会のほとんどが中止となっており、その影響は日々深刻さを増していることも事実です。今後は新型コロナウイルス感染症の流行が終息するタイミングを見極め、安全面に最大の配慮を払いながら学会活動を可能な限り早期に正常化させることを目指します。また、本会の強みである映像通信技術の知見を活かして研究会や各種委員会のオンライン開催といった新たな取り組みにも挑戦し、そのノウハウを将来の学会活動に役立てたいと考えています。

一方、継続的な懸念事項であった会員数の減少については、依然厳しい状況が続いています。次の10年を見据えた本会の安定的な活動を実現するため、引き続き本会の魅力向上や広報活動の強化といった施策を通じて会員の増加を目指すと共に、学会運営の効率化にも取り組む必要があります。このような現状を踏まえ、2020年度は「学会の活性化」、「新分野の開拓」、「広報活動と会員サービスの拡充」の3つを基本施策として事業の運営を進めます。

【2020年度基本施策】

1-1 学会の活性化

2020年度の学会運営体制は、17名の理事を中心メンバーとして目的ごとに設置された委員会を実行部隊とし、理事会との情報共有を密に図りながら活動を進めていきます。2019年度は13委員会を設置していましたが、時限で設置されていた学会活性化委員会の活動は一部を長期計

画検討委員会に委ねることで終了とし、WebIT 化委員会は広報委員会に統合することでスリム化を図りました。したがって、今年度は 11 委員会が活動の中心となり、それぞれ 2019 年度に取り纏めたアクションプランと申し継ぎ事項を参考にしながら課題解決に取り組みます。また理事会に関しては全理事および監事が出席する定例理事会の開催数を 10 回から 8 回に減らし、各理事の負担を緩和しつつ重要案件を集中的に審議する運営方法を確立します。

2019 年度の予算は、学会活性化の観点から敢えて赤字編成でスタートしましたが、テストチャート新シリーズの販売数の伸びなどが貢献し、また、テストチャート頒布事業に伴う人件費配賦割合の見直しにより最終的に黒字に転ずることができました。2020 年度は、新たに開始する研究会参加費の有料化による収益増が期待できますが、事業活動支出の増額が見込まれるため引き続き赤字予算を編成することとなりました。なお、事業支出費のうち 70 周年記念事業費は将来の学会活性化に向けた投資としての意味合いを持つことから、記念事業基金として積み立てられた特定資産の一部を取り崩して補填する予定です。

一方、学会活性化の最重要課題である会員増の取り組みとして、昨年度から年次大会および冬季大会の非会員の参加者を当該年度に限り準会員として登録し、無料で会員サービスの一部（学会誌の電子購読およびメールマガジンの配信）を提供する制度を開始しました。新年度に入り登録期間が終了する準会員は 78 名に及ぶため、これらの方々に積極的なプロモーションを行い、新たな正会員の獲得に繋がりたいと考えています。また、大学や高等専門学校などの研究室単位で最大 10 名の学生を会員登録できるアカデミックパートナー制度については、小規模な研究室ではメリットが小さいという声に應えるため、少人数でも登録できる新しい制度の導入を検討します。

学会の本部と地方支部の連携強化のための施策として、2019 年度も本部役員を支部大会に派遣して直接対話する機会を設け、意識の共有を図りました。2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により支部大会の開催見通しが立たない事態が続いているため、残念ながら本部役員の派遣を原則中止することになりました。また、例年支部長会議が企画されている年次大会も夏季の開催が見送られるため、今年度は 12 月に開催予定の 70 周年記念大会期間中に支部長会議を招集すると共に、大会企画である記念講演会および懇親会への参加を呼びかけ、各支部との交流を深める機会とします。

本会ならではの取り組みであるテストチャートの頒布事業については、4K・8K 映像を収録した超高精細・広色域標準動画像シリーズが引き続き好評を博しており、特に高ダイナミックレンジ映像を収録して 2018 年度に頒布を開始した超高精細・広色域 HDR 版標準動画像は、本会の重要な収益源となっています。引き続き、学会や映像関連イベントでの周知活動を行うと共に、高フレームレート映像を収録した新シリーズや、三次元マルチチャンネル音響標準音源の続編などの制作を検討します。

1-2 新分野の開拓

本会はテレビジョン学会の旧称が示すように、伝統的に放送関連分野の技術者が会員の多くの割合を占めてきました。新たな会員の獲得のためには、従来の分野にとらわれず、映像情報関連の幅広いテーマを積極的に取り上げ、これまでとは異なる層の技術者の興味を喚起するこ

とが必要です。そこで、2020 年 12 月に開催予定の創立 70 周年記念大会では、異分野の非会員にも興味を持って参加していただけるよう、映像のネット配信やメディアアート分野の著名人を招いた魅力的な記念講演会を企画しています。また、映像情報メディア学会が擁する 10 研究会が一堂に会してそれぞれの技術分野の未来展望を語るセッションも用意し、本会の活動を積極的にアピールします。

2020 年は、国内通信事業者による第 5 世代移動通信システム (5G) のサービスが本格始動します。また、開催時期は 1 年間後ろ倒しとなりましたが、オリンピック・パラリンピックを契機に 4K・8K 放送を受信可能な機器や AR/VR 関連のデバイスが普及し、スポーツ映像処理に関する技術革新も進展することが予想されます。2019 年度は年次大会や冬季大会でこれらの新技術に焦点をあてたテーマセッションを開催し、多くの参加者を集めました。2020 年度も新型コロナウイルス感染症が終息した後の経済復興を視野に入れ、引き続き時流に沿ったテーマのイベントの企画を検討します。

新分野開拓の一環として、国内外の関連学会との連携強化も推進します。既に本会との協定を結んでいるブラジルテレビ放送技術協会 (SET: Brazilian Society of Engineering of Television)、韓国放送メディア技術学会 (KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers) とは、引き続き大会における講師の相互派遣やジョイントセッションなどの連携企画を実施します。国際会議については International Display Workshop (IDW 2020) や International Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT 2021) との共催を継続します。また、国内の画像関連学会が合同で開催する International Conference on Advanced Imaging (ICAI) については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催時期が来年度に延期されることが決まっていますが、引き続きセッション企画を担当することで運営に協力します。

1-3 広報活動と会員サービスの拡充

ホームページやメーリングリスト、各種 SNS を活用した情報発信は、有効な広報手段として 2020 年度も積極的な活用を図っていきます。また、4K・8K 映像技術展や Inter BEE (国際放送機器展) への出展、業界紙への広告出稿といった、ターゲットを絞った効果的な広告戦略も引き続き展開します。

新型コロナウイルス感染症の影響は、在宅勤務や遠隔教育の必要性から図らずもインターネットを介したビデオ会議システムの普及を後押しする結果となりました。本会でもビデオ会議による理事会運営等を試験的に開始していますが、この経験により得られたノウハウを、研究会やシンポジウムの映像配信やリモート参加など、映像情報メディア学会ならではの施策に活かし、会員の利便性向上に繋げることを検討します。

さらに今年度は、創立 70 周年記念大会を本会の存在を広くアピールする広報活動の一環と位置付けて準備を進めています。来場者の利便性という観点から立地に優れた一橋講堂 (千代田区) を会場と定め、従来の冬季大会も兼ねた 3 日間の会期中日となる 12 月 23 日 (水) には、映像情報メディア学会創立 70 周年記念講演会「映像情報メディアのグランドチャレンジ」と銘打って一般向けの企画を用意しています。この講演会の情報を広く周知するため、インターネットを含む各種媒体での広報活動に力を入ると共に、来場者に対して本会の魅力を伝え、新

たな会員獲得に繋がるような企画の立案に取り組んでいます。

2. 機関誌・論文集・研究会資料等の刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

①冊子体

編集委員会（編集長：佐藤真一）において、会員に新しい情報を提供するとともに、会員の研究発表の場として「映像情報メディア学会誌」を編集、発行し（隔月（奇数月））、会員に配布します。内容については、特集号を中心に企画し、下記の項目を予定しています。

また、特集以外に、タイムリーな技術解説記事、教科書的な連載講座、平易で読み物的な解説記事、年次・冬季大会との連動企画記事、研究委員会、支部との連携による解説記事など、多様な会員のニーズを満たすべく、バランスのとれた魅力的な誌面を目指します。会誌関連動画コンテンツなど、Web サイトとの連携強化を継続して誌面の魅力向上に努めます。学会HPではく知っておきたいキーワード＜年報＞＜輝け！リケジョ＞＜研究開発ツール＞＜話題；見聞記＞＜報告＞＜ベンチャービジネス＞を、引き続き全文公開いたします。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

（冊子体）

巻	号	通巻号	特 集 題 目 案	奥付発行年月日	発行部数
74	3	830	5G（関西支部題目提案）	2020年5月1日	3,200
			新しい放送制作と送出の取り組み （北海道支部題目提案）		
74	4	831	メディアアート	2020年7月1日	3,200
74	5	832	学会創立70周年記念	2020年9月1日	3,200
74	6	833	医療画像診断最前線とAI （関西支部題目提案）	2020年11月1日	3,200
			特殊撮像技術		
75	1	834	VVC (Versatile Video Coding)	2021年1月1日	3,200
75	2	835	地上放送の高度化技術に関する最新動向	2021年3月1日	3,200
			空中像ディスプレイの基礎と応用		

（2）論文関係

①和文論文

和文論文編集委員会（委員長：篠田浩一）において、オンラインジャーナルとして冊子体送本と同時期に全文を一般公開します。内容については、下記特集を予定しています。また、各研究委員会との連携を一層強化し、特集号の充実を図り、新たな試みを企画し、論文投稿数、掲載数の確保に努力します。さらにはTwitterおよび学会Facebookにより、継続して論文募集を行います。

(オンラインジャーナル/投稿欄)

巻	月号	特 集 題 目 案	公開年月日
74	5	一般論文	2020 年 4 月 27 日
74	7	一般論文	2020 年 6 月 25 日
74	9	一般論文	2020 年 8 月 25 日
74	11	ディスプレイ-IDW' 19 を中心にー	2020 年 10 月 26 日
75	1	選奨 (技術振興賞/映像情報メディア未来賞) 受賞者論文 (招待論文)	2020 年 12 月 21 日
74	3	映像表現とコンピュータグラフィックス ～映像表現・芸術科学フォーラム 2020 を中心に～	2021 年 2 月 25 日

②英語論文 (MTA)

MTA編集委員会 (委員長: 篠田浩一) において, 会員のグローバルな研究発表の場としてオンラインジャーナル「ITE Transactions on Media Technology and Applications (略称, MTA)」を編集, 年 4 回発行し, 会誌発行日と同時期に全文を一般公開します。内容については, 毎号特集を中心に企画し, 下記を予定しています。また, 新たな試みを企画し, 幅広く投稿勧誘を行うなど, 一定数以上の投稿数ならびに掲載数の確保に努力します。さらに, MTA の引用数の増加と国際発進力の強化を引き続き行い, IF 取得を目指して努力します。

Vol., No.	Special Section Title	公開年月日
Vol. 8, No. 3	Media Engineering and Applications	2020 年 7 月 1 日
Vol. 8, No. 4	IDW ' 19	2020 年 10 月 1 日
Vol. 9, No. 1	Advanced Imaging and Computer Graphics Technology	2021 年 1 月 1 日
Vol. 9, No. 2	Advanced Image Sensor Technology	2021 年 4 月 1 日

(3) 大会講演予稿集の発行

①創立 70 周年記念大会講演予稿集 (Web ダウンロード版および CD-R 版) 作成。

参加予定人数: 300 名

②創立 70 周年記念講演会予稿集作成

参加予定人数: 300 名

(4) 研究会資料「技術報告」の刊行

研究会資料「映像情報メディア学会技術報告」を各号約 160 部発行します。

3. 調査研究活動 (定款 第 4 条 (3))

学会の最も基本的な活動である研究活動については, 最近の急速な技術の進展に対処するため, 例年以上に積極的に推進します。

技術委員会 (委員長: 伊東 晋) において, 広汎かつ長期にわたる観点から研究活動の現況を把握し, 研究委員会および時限研究会の活動を統轄調整し, その円滑な運営をはかります。研究会の活性化についても, 鋭意検討を進めます。研究活動を実施するための下記委員会を置きます。

研究委員会が開催する研究会は、会員が積極的に発表・討議に参加できるよう公開開催とします。今年度より参加費が有料となります。予稿はWEBダウンロード配布となり、当日と事前の参加登録が可能となります。

また、研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」（含：CD-ROM版）を研究委員会別予約制により有料頒布します。

時限研究会の研究の経過・成果は、随時研究集会、講演会を開催あるいは報告書を作成して公表します。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨期3月の研究会は開催中止（一部延期）となりましたが、5月以降も当面は、開催見合わせ、延期、オンライン開催などの対応を検討、実施することとします。

<研究委員会>

委 員 会 名	委 員 長 名
情報センシング研究委員会	秋 田 純 一
情報ディスプレイ研究委員会	木 村 宗 弘
マルチメディアストレージ研究委員会	町 田 賢 司
放送技術研究委員会	斎 藤 恭 一
ヒューマンインフォメーション研究委員会	永 井 岳 大
メディア工学研究委員会	新 井 啓 之
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	向 井 信 彦
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	樺 澤 哲
立体映像技術研究委員会	陶 山 史 朗

<時限研究会>

委 員 会 名	委 員 長 名
スポーツ情報処理時限研究会	渡 辺 裕

(1) <研究会年間予定>

「情報センシング研究会」委員長：秋田純一（金沢大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 5月28日 ～29日	石川	インタラクティブシステム、画像入力デバイス・方式、バイオメトリクス	26件	20～30名
7月 1日	東京	高機能イメージセンシングとその応用、若手向けチュートリアル講演	未 定	20～30名
7月	北海道	イメージセンサのインタフェース回路、アナログ回路	未 定	20～30名
9月	東京	イメージセンサ	未 定	20～30名
10月	東京	立体映像、高臨場感映像	未 定	20～30名

11月	東京	新機能光学素子とイメージセンサー	未定	20～30名
2021年 2月	東京	赤外線センサ（赤外放射の応用関連学会）	未定	20～30名
3月	東京	固体撮像技術	未定	20～30名

「情報ディスプレイ研究会」委員長：木村宗弘（長岡技術科学大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 7月	東京	Display Week 2020 報告会	未定	20～30名
8月	東京	ディスプレイ	未定	20～30名
10月	東京	画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター	未定	20～30名
11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2021年 1月	京都	発光型・非発光型ディスプレイ	未定	20～30名
3月	東京	ディスプレイ技術シンポジウム	未定	20～30名

「マルチメディアストレージ研究会」委員長：町田賢司（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 6月 4日 5日	宮城	記録システム	中止	20～30名
10月15日 16日	東京	ヘッド・スピントロニクス	未定	20～30名
12月 3日 4日	愛媛	信号処理	未定	20～30名
2021年 2月	北海道	ITS画像処理，映像メディア	未定	20～30名

「放送技術研究会」委員長：斎藤恭一（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 7月31日	東京	放送現業技術・送受信技術、番組制作技術・送出技術	未定	20～30名
9月 4日	長崎	放送送受信技術	未定	20～30名
10月 1日 2日	愛知	放送・通信連携，知的マルチメディア処理システム等	未定	20～30名
10月30日	東京	放送設備見学会：テレビ朝日	未定	20～30名
11月12日 13日	島根	放送技術，有線技術，光技術等	未定	20～30名
11月26日 27日	北海道	画像符号化・通信・ストリーム技術・放送技術	未定	20～30名
2021年 1月21日 22日	福岡	アンテナ・伝搬，マイクロ波における学生若手発表	未定	20～30名
2月18日 19日	滋賀	学生・若手発表	未定	20～30名
3月12日	沖縄	デジタル放送技術	未定	20～30名

「ヒューマンインフォメーション研究会」委員長：永井岳大（東京工業大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 10月	未定	視聴覚	未 定	20～30 名
2021年 3月	東京	視聴覚	未 定	20～30 名

「メディア工学研究会」委員長：新井啓之（日本工業大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 5月28日 29日	石川	映像・信号の処理・解析・AI技術とその多分野応用	11件	20～30 名
7月	東京	画像処理・マルチメディア情報処理・インタフェースとその応用	未 定	20～30 名
9月 7日 8日	静岡	サマーセミナー（若葉研究者の集い）	未 定	20～30 名
9月	未定	マルチメディア通信／システム，ライフログ活用技術，IP放送／映像伝送，メディアセキュリティ	未 定	20～30 名
12月	未定	スポーツ情報処理／解析	未 定	20～30 名
2021年 1月	未定	IWAIT2021	未 定	20～30 名
2月	北海道	ITS画像処理，映像メディア	未 定	20～30 名
2月	神奈川	学生研究発表会	未 定	20～30 名

「映像表現&コンピュータグラフィックス研究会」委員長：向井信彦（東京都市大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 8月	未定	画像	未 定	20～30 名
9月	東京	3次元画像及びホログラフィ	未 定	20～30 名
11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2021年 1月	未定	IWAIT2021	未 定	20～30 名
2月	北海道	ITS画像処理，映像メディア	未 定	20～30 名
3月	東京	映像表現・芸術科学フォーラム 2021 (Expressive Japan 2021)	未 定	20～30 名

「アントレプレナー・エンジニアリング研究会」委員長：樺澤 哲（サンブリッジ グローバルベンチャーズ）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 7月25日	東京	江戸から東京へと受け継がれる映像コンテンツと地域の関係，ICTイノベーション	未 定	20～30 名
9月12日	東京	持続可能な社会システム	未 定	20～30 名
11月	京都	産業改革に向けたチャレンジ（仮）	未 定	20～30 名

「立体映像技術研究会」委員長：堀越 力（湘南工科大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 6月 3日 4日	北海道	知的マルチメディアシステム，組込み応用システム，立体映像技術	未 定	20～30 名
9月	東京	3次元映像およびホログラフィー	未 定	20～30 名
11月	神奈川	立体映像，高臨場感映像	未 定	20～30 名
10月	東京	画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター	未 定	20～30 名
11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2021年 3月	東京	立体の視覚・生体，コンテンツ，アプリケーション，立体映像技術	未 定	20～30 名

「スポーツ情報処理時限研究会」委員長：渡辺 裕（早稲田大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2020年 6月 1日 2日	東京	スポーツ情報処理	未 定	20～30 名
12月	未定	スポーツ情報処理／解析	未 定	20～30 名
2021年 2月	北海道	スポーツ情報処理	未 定	20～30 名

4. 大会，講演会の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する大会を企画し，会員のみならず，広くわが国の技術レベルを高めるべく，適正規模で開催します。

学会創立70周年となる本年度は，冬季大会において記念イベントを開催いたします。

（1）2020年度年次大会（主催）

東京オリンピック・パラリンピックと開催が予定されていたため，2020年度の開催は見送ることといたしました。3月下旬，東京オリンピック・パラリンピック開催が1年延期となりましたが，新型コロナウイルス感染症の収束も見通しが立たず，会場確保を含めた準備期間も足りないため，当初の予定通り，開催は見送りいたします。

（2）2020年度冬季大会（創立70周年記念大会）（主催）

2020年12月22日～24日の3日間，一橋講堂において開催します。

このための実行委員会（委員長 斎藤英雄／副会長）を置き，運営にあたります。

また，昨年度，創立70周年記念事業ワーキンググループが発足しており，記念講演会・記念レセプションなどの企画・運営に継続してあたります。

5. 国際会議の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する国際会議に積極的に取り組み，国外との交流を図ります。

（1）ICA I 2021（協賛・企画協力）

2021年11月，幕張メッセ国際会議場において，日本写真学会，日本印刷学会，日本画像学会，IS&T共催にて開催を予定しており，会期中に本会企画セッション開催へ向

けて引き続き協力いたします。

(2) 第27回ディスプレイ国際ワークショップ (IDW2020) (共催)

2020年12月9日～11日の3日間、福岡国際会議場において、SID (本部) と共催します。

(3) この他にも、国際会議検討委員会において検討を進めると共に、他学会との関係性維持にも努めてまいります。

6. ITEテストチャートの作成・頒布 (定款 第4条(2))

ITEテストチャート委員会 (委員長：井口和久) を中心に次の事業展開を行います。

- (1) 超高精細・広色域標準動画像小委員会 (主査：松田一朗), ARIBと共同で超高精細・広色域標準動画像Dシリーズ (HFR：ハイフレームレート版, 8K120P, 240P) の検討を進めます。
- (2) 3次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会 (主査 小野一穂), ARIBと共同でダウンミックス時の標準音源について継続検討し、頒布開始を目指します。

7. 図書の刊行・企画 (定款 第4条(2) 項)

編集委員会 (編集長：佐藤真一) は、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化などを検討します。出版が困難な場合は、会員サービスとして、学会ホームページにて全文公開します。

8. 研究の奨励および業績の表彰 (定款 第4条(5))

(1) 学会賞関係

選奨委員会 (委員長：今井 亨／副会長) において、本学会にふさわしい選奨のありかた、選定方法等について検討を行います。その結論に基づき、丹羽高柳賞、技術振興賞、鈴木記念奨励賞、映像情報メディア未来賞の諸賞を選定し、贈呈いたします。

また例年、年次大会・冬季大会で優秀な講演を行った学生・高専生を対象にそれぞれの、大会実行委員会で選定し、「学生優秀発表賞」を贈呈いたしますが、2020年度の年次大会は、東京オリンピック・パラリンピックと開催時期が重なるため、開催を見送ることから、2020年度は冬季大会 (創立70周年記念大会) 実行委員会のみで選定し、「学生優秀発表賞」を贈呈いたします。研究会での発表を対象とした優秀発表は、各研究委員会が選定し、「優秀研究発表賞」を贈呈いたします。

①丹羽高柳賞：功績賞：2名以内

〃 業績賞：2件以内

〃 論文賞：3件以内

②鈴木記念奨励賞：5名以内

③技術振興賞：進歩開発賞 (現場運用部門)：3件以内

〃 進歩開発賞 (研究開発部門)：3件以内

- 〃 コンテンツ技術賞：3件以内
- ④映像情報メディア未来賞：フロンティア賞：2件以内
次世代テレビ技術賞：2件以内
- ⑤学生優秀発表賞：年次大会：5件以内
〃 冬季大会：5件以内
- ⑥優秀研究発表賞：10件～15件程度
- (2) フェロー会員の認定
フェロー選定委員会において、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本学会活動に貢献された正会員の中から、フェロー会員を正会員数の5%以内を認定します。選出に際し、選定委員会（委員長：斎藤英雄／副会長）を置き運営します。

9. 青少年および社会に対する啓発普及（定款 第4条（7））

一般市民も対象にした公開講演会（入場無料）は、例年年次大会行事として検討しますが、2020年度の年次大会は、東京オリンピック・パラリンピックと開催時期が重なるため、開催を見送ることとしたため、2020年度冬季大会（創立70周年記念大会）において、開催を検討いたします。

10. 会議および委員会等（定款 第4条（8））

- (1) 第67回定時社員総会：2021年5月28日開催（予定）
- (2) 理事会：6月・7月・9月・11月・1月・3月・4月・5月の8回開催
(年3回、会長が指名する代表代議員の参加を予定、また支部長、研究委員会委員長の参加を検討します)
- (3) 広報委員会：随時開催
- (4) 創立70周年記念大会実行委員会：6月～12月の期間に随時開催
創立70周年記念事業ワーキンググループ：4月～12月までの期間に随時開催
- (5) 編集関係委員会
 - ① 編集委員会（企画委員会）：年7回開催
 - ② 同（年次企画委員会）：年3回開催
 - ③ 同（海外文献部門委員会）：年4回程度開催
 - ④ 同（ニュース部門委員会）：記事選定のみの場合はメール審議、議案があれば委員会を開催
- (6) 論文委員会（和文論文運営委員会、英語論文運営委員会）：随時開催
- (7) 技術委員会：4月～3月の期間に3回～4回開催
- (8) 選奨関係委員会（メール審議含）
 - ① 選奨委員会：第1回会議を11月に開催し、前年度申継事項および諸課題を検討
 - ② 「技術振興賞」進歩開発賞（現場運用部門）・（研究開発部門）選考専門部会：3月に開催
 - ③ 「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会：3月に開催（地方開催予定）

- ④ 映像情報メディア未来賞選考専門部会：3月に開催
- ⑤ 「丹羽高柳賞」功績賞・業績賞・論文賞の選考
 - ※功績賞・業績賞は推薦件数により1回または2回投票，論文賞は1回投票
- ⑥ 鈴木記念奨励賞の選考（2回投票）
- （9）フェロー選定委員会：2回開催（推薦締切を12月末，第1回委員会は1月下旬予定）
- （10）テストチャート委員会：随時開催
- （11）国際連携委員会
 - ①ICAI2021 実行委員会に随時参加
 - ②その他、海外学会との交流
- （12）映像情報メディア発展事業資金運営委員会：随時開催
- （13）長期計画検討委員会：随時開催
- （14）電気・情報関連学会連絡協議会：7月と1月の年2回

以上

2020年度予算報告書

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

収支予算書

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

(単位:円)

科 目		予算額	前年度予算額	増 減
I	一般正味財産増減の部			
1.	経常増減の部			
(1)	経常収益			
	基本財産運用益	1,000	1,000	0
	特定資産運用益	1,000	1,000	0
	特定資産受取金	400,000	200,000	200,000
	受取入会費	400,000	200,000	200,000
	受取入会費	30,000	30,000	0
	受取入会費	30,000	30,000	0
	正学学生会員会費	52,175,000	55,055,000	-2,880,000
	維持特殊アガミクラブ会費	27,000,000	30,000,000	-3,000,000
	7カデミクラブ会費	23,375,000	23,375,000	0
	事業誌次大大会報告係	800,000	800,000	0
	事業誌次大大会報告係	1,000,000	880,000	120,000
	事業誌次大大会報告係	26,820,000	32,130,000	-5,310,000
	事業誌次大大会報告係	3,710,000	5,780,000	-2,070,000
	事業誌次大大会報告係	900,000	1,100,000	-200,000
	事業誌次大大会報告係	0	3,000,000	-3,000,000
	事業誌次大大会報告係	2,800,000	1,400,000	1,400,000
	事業誌次大大会報告係	1,100,000	1,100,000	0
	事業誌次大大会報告係	1,822,000	0	1,822,000
	事業誌次大大会報告係	6,188,000	7,550,000	-1,362,000
	事業誌次大大会報告係	200,000	200,000	0
	事業誌次大大会報告係	10,100,000	12,000,000	-1,900,000
	事業誌次大大会報告係	450,000	350,000	100,000
	事業誌次大大会報告係	450,000	350,000	100,000
	事業誌次大大会報告係	961,000	801,000	160,000
	事業誌次大大会報告係	1,000	1,000	0
	事業誌次大大会報告係	400,000	800,000	-400,000
	事業誌次大大会報告係	560,000	0	560,000
	経常収益計	80,837,000	88,567,000	-7,730,000
(2)	経常費用			
	事業当生通搬費	57,138,000	60,465,000	-3,327,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	16,453,000	18,352,000	-1,899,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	910,000	1,140,000	-230,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	2,151,000	2,405,000	-254,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	775,000	895,000	-120,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	3,951,000	4,051,000	-100,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	1,466,000	1,466,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	200,000	215,000	-15,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	13,985,600	14,354,600	-369,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	5,526,000	5,295,000	231,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	634,000	633,000	1,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	1,040,000	1,040,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	670,000	815,000	-145,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	885,000	905,000	-20,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	100,000	100,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	4,469,400	4,836,400	-367,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	900,000	900,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	522,000	562,000	-40,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	2,500,000	2,500,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	32,509,000	31,534,000	975,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	14,617,000	15,550,000	-933,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	1,679,000	1,795,000	-116,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	262,000	189,000	73,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	219,000	231,000	-12,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	243,000	243,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	195,000	195,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	1,508,000	1,508,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	367,000	367,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	200,000	250,000	-50,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	500,000	500,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	1,608,000	1,648,000	-40,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	455,000	560,000	-105,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	200,000	250,000	-50,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	5,039,000	5,036,000	3,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	343,000	342,000	1,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	2,100,000	2,100,000	0
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	800,000	600,000	200,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	10,000	100,000	-90,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	2,094,000	0	2,094,000
	給派福旅通消修賃支諸租会支広委図雑法管	70,000	70,000	0
	経常費用計	89,647,000	91,999,000	-2,352,000
	評価損益等調整前当期経常増減額	-8,810,000	-3,432,000	-5,378,000
	評価損益等計	0	0	0
	当期経常増減額	-8,810,000	-3,432,000	-5,378,000
2.	経常外増減の部			
(1)	経常外収益			
	経常外収益計	0	0	0
(2)	経常外費用			
	経常外費用計	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0
	当期一般正味財産増減額	-8,810,000	-3,432,000	-5,378,000
	一般正味財産期首残高	0	0	0
	一般正味財産期末残高	-8,810,000	-3,432,000	-5,378,000
II	指定正味財産増減の部			
	当期指定正味財産増減額	0	0	0
	指定正味財産期首残高	0	0	0
	指定正味財産期末残高	0	0	0
III	正味財産期末残高	-8,810,000	-3,432,000	-5,378,000

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

(単位：円)

[illegible]

		その他会計(公)			法人会計	本部合計	支部合計	内部消去	合　計
会誌頒布	共通	年次大会	冬季大会	共通	法人会計				
0	0	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
0	0	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	30,000	30,000	0	0	30,000
0	0	0	0	0	30,000	30,000	0	0	30,000
0	0	0	0	0	52,175,000	52,175,000	0	0	52,175,000
0	0	0	0	0	27,000,000	27,000,000	0	0	27,000,000
0	0	0	0	0	23,375,000	23,375,000	0	0	23,375,000
0	0	0	0	0	800,000	800,000	0	0	800,000
0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000	0	0	1,000,000
900,000	0	0	2,800,000	0	0	25,720,000	7,355,000	-6,255,000	26,820,000
900,000	0	0	0	0	0	3,710,000	0	0	3,710,000
0	0	0	0	0	0	900,000	0	0	900,000
0	0	0	2,800,000	0	0	2,800,000	0	0	2,800,000
0	0	0	0	0	0	0	1,100,000	0	1,100,000
0	0	0	0	0	0	1,822,000	0	0	1,822,000
0	0	0	0	0	0	6,188,000	0	0	6,188,000
0	0	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
0	0	0	0	0	0	10,100,000	0	0	10,100,000
0	0	0	0	0	0	0	6,225,000	-6,225,000	0
0	0	0	0	0	0	0	30,000	-30,000	0
0	0	0	0	0	450,000	450,000	0	0	450,000
0	0	0	0	0	450,000	450,000	0	0	450,000
0	0	0	0	0	961,000	961,000	0	0	961,000
0	0	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
0	0	0	0	0	400,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	560,000	560,000	0	0	560,000
900,000	0	0	2,800,000	0	53,737,000	79,737,000	7,355,000	-6,255,000	80,837,000
0	9,695,000	0	1,900,000	1,678,000	0	54,358,000	2,780,000	0	57,138,000
0	5,200,000	0	0	1,180,000	0	16,453,000	0	0	16,453,000
0	0	0	160,000	0	0	910,000	0	0	910,000
0	680,000	0	0	154,000	0	2,151,000	0	0	2,151,000
0	0	0	100,000	0	0	160,000	615,000	0	775,000
0	34,000	0	160,000	8,000	0	3,861,000	90,000	0	3,951,000
0	72,000	0	120,000	16,000	0	1,366,000	100,000	0	1,466,000
0	0	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
0	95,000	0	360,000	22,000	0	13,415,600	570,000	0	13,985,600
0	1,077,000	0	300,000	245,000	0	5,526,000	0	0	5,526,000
0	200,000	0	0	45,000	0	634,000	0	0	634,000
0	0	0	400,000	0	0	770,000	270,000	0	1,040,000
0	0	0	100,000	0	0	420,000	250,000	0	670,000
0	0	0	0	0	0	0	885,000	0	885,000
0	0	0	0	0	0	100,000	0	0	100,000
0	0	0	0	0	0	4,469,400	0	0	4,469,400
0	0	0	0	0	0	900,000	0	0	900,000
0	37,000	0	200,000	8,000	0	522,000	0	0	522,000
0	2,300,000	0	0	0	0	2,500,000	0	0	2,500,000
0	0	0	0	0	34,189,000	34,189,000	4,575,000	-6,255,000	32,509,000
0	0	0	0	0	14,617,000	14,617,000	0	0	14,617,000
0	0	0	0	0	1,679,000	1,679,000	0	0	1,679,000
0	0	0	0	0	100,000	100,000	162,000	0	262,000
0	0	0	0	0	89,000	89,000	130,000	0	219,000
0	0	0	0	0	173,000	173,000	70,000	0	243,000
0	0	0	0	0	0	0	195,000	0	195,000
0	0	0	0	0	1,508,000	1,508,000	0	0	1,508,000
0	0	0	0	0	367,000	367,000	0	0	367,000
0	0	0	0	0	200,000	200,000	0	0	200,000
0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	700,000	700,000	0	0	1,608,000
0	0	0	0	0	0	0	455,000	0	455,000
0	0	0	0	0	200,000	200,000	0	0	200,000
0	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000	2,539,000	0	5,039,000
0	0	0	0	0	227,000	227,000	116,000	0	343,000
0	0	0	0	0	2,100,000	2,100,000	0	0	2,100,000
0	0	0	0	0	800,000	800,000	0	0	800,000
0	0	0	0	0	6,255,000	6,255,000	0	-6,255,000	0
0	0	0	0	0	10,000	10,000	0	0	10,000
0	0	0	0	0	2,094,000	2,094,000	0	0	2,094,000
0	0	0	0	0	70,000	70,000	0	0	70,000
0	9,695,000	0	1,900,000	1,678,000	34,189,000	88,547,000	7,355,000	-6,255,000	89,647,000
900,000	-9,695,000	0	900,000	-1,678,000	19,548,000	-8,810,000	0	0	-8,810,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-9,695,000	0	900,000	-1,678,000	19,548,000	-8,810,000	0	0	-8,810,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0						

2020年度 予算-支部合算一

(単位:円)

科 目	要求合計額	備 考
I. 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
本部交付金	6,225,000	
研究会等補助金収入	30,000	
事業収入	1,100,000	
連合大会	0	
講習会収入	1,100,000	
講演会収入	0	
見学会収入	0	
年次大会	0	
雑収入	0	
連合大会繰入金	0	
事業活動収入計	7,355,000	
2. 事業活動支出		
事業費支出	3,430,000	
連合関係費	830,000	
講習会費	810,000	
講演会費	590,000	
見学会費	340,000	
研究会費	155,000	
年次大会費	55,000	
支部ホームページ	195,000	
その他事業費	455,000	
管理費支出	3,925,000	
交通費	162,000	
通信費	130,000	
消耗品費	70,000	
会議費	13,000	
総会費	331,000	
役職会費	210,000	
支部長会議費	354,000	
委託経費	2,539,000	
雑費	116,000	
事業活動費支出計	7,355,000	
事業活動収支差額	0	
II. 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
各種発基金取崩収入	0	
引当金戻入収入	0	
発展事業資金収入	0	
投資活動収入計	0	
2. 投資活動支出		
各種基金取得支出	0	
引当金繰入支出	0	
発展事業資金繰入支出	0	
投資活動支出計	0	
投資活動収支差額	0	
III. 財務活動収支の部		
1. 財務活動収入	0	
2. 財務活動支出	0	
財務活動収支差額	0	
IV. 予備費支出	0	
当期予算収支差額	0	
前期繰越予算収支差額	0	
次期繰越予算収支差額	0	

2020年度 予算-内訳明細

	2019年本部交付金(参考)	550,000	446,000	320,000	710,000
科 目	北海道	東北	北陸	東海	
I. 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
本部交付金	550,000	466,000	320,000	450,000	
研究会等補助金収入	0	0	0	0	
事業収入	0	0	0	0	
連合大会	0	0	0	0	
講習会収入	0	0	0	0	
講演会収入	0	0	0	0	
見学会収入	0	0	0	0	
年次大会	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	
連合大会繰入金	0	0	0	0	
事業活動収入計	550,000	466,000	320,000	450,000	
2. 事業活動支出					
①事業費支出	350,000	325,000	130,000	360,000	
連合関係費	100,000	130,000	30,000	60,000	
講習会費	0	10,000	0	0	
講演会費	250,000	50,000	40,000	0	
見学会費	0	80,000	0	250,000	
研究会費	0	5,000	30,000	0	
年次大会費	0	5,000	0	0	
支部ホームページ	0	5,000	0	0	
その他事業費	0	40,000	30,000	50,000	
②管理費支出	200,000	141,000	190,000	90,000	
交通費	0	2,000	40,000	10,000	
通信費	20,000	10,000	10,000	0	
消耗品費	25,000	15,000	0	5,000	
会議費	0	3,000	0	0	
総会費	15,000	54,000	80,000	30,000	
役職会費	15,000	5,000	25,000	5,000	
支部長会議費	120,000	44,000	25,000	30,000	
委託経費	5,000	5,000	10,000	10,000	
雑費	0	3,000	0	0	
事業活動支出計	550,000	466,000	320,000	450,000	
事業活動収支差額	0	0	0	0	
II. 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
各種基金取崩収入	0	0	0	0	
引当金戻入収入	0	0	0	0	
発展事業資金戻入収入	0	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	0	
2. 投資活動支出					
各種基金取得支出	0	0	0	0	
引当預金繰入支出	0	0	0	0	
発展事業資金繰入支出	0	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	0	
III. 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入	0	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	
IV. 予備費支出	0	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	0	
次期繰越金	0	0	0	0	
収支差額	0	0	0	0	

(単位:円)

6,465,000

[illegible]

2020年度役員改選選挙結果

2020年度役員改選選挙は、名誉会員および正会員の投票により行われ、以下の方々を選出した。
なお、理事の担務は5月29日開催の臨時理事会において協議のうえ正式に確定する。

＜投票期間：2月22日（土）0時～3月23日（月）24時＞

次期会長 ：田中孝司（KDDI）
副会長（本部）：齋藤英雄（慶応義塾大学）
副会長（支部）：石橋 豊（名古屋工業大学）
編集長 ：佐藤真一（国立情報学研究所）
総務担当理事 ：石井紀彦（NHK）
会計担当理事 ：星沢 拓（日立LGデータストレージ）
調査担当理事 ：佐藤 誠（日本テレビ）
編集担当理事 ：洗井 淳（NHK）
企画担当理事 ：岩尾洋英（フジテレビジョン）
監事 ：伊藤泰宏（NHKエンジニアリングシステム）

2019年度役員・委員等名簿

(2020年3月31日現在)

注) 氏名欄の「→」は、任期中の交代を示す。

(1) 役員・代議員

*印：代表代議員

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
会 長	相澤 清 晴	東京大学	代議員*	小島 敏 裕	フジテレビ
次期会長	児野 昭 彦	N H K	〃	小室 孝 一	埼玉大学
副 会 長	熊澤 逸 夫	東京工業大学	〃 *	藤 洋 利	東京大学
〃	鶴岡 信	三重大学	〃 *	澤 見 英 男	読売テレビ
〃	今井 亨	N H K	〃	澤 田 英 晴	岡山理科大学
〃	馬場 登 行	大阪大学	〃	志 水 直 康	N H K 福井
編 集 長	八木 伸 啓	東京都市大学	〃	清 関 正 博	N H K ー E S
総務担当	石井 一 朗	N H K	〃 *	高 木 林 誠	N H K 工業
〃	松田 洋 俊	東京理科大学	〃	高 村 吉 之 郎	住友電気工業
会計担当	高阪 相 直	アストロデザイン	〃	高 瀧 口 愛 秀	東京農工大学
〃	森住 俊 彦	N T T	〃	高 村 誠 之 郎	T B S テレビ
調査担当	居相 直 勝	N H K	〃	高 瀧 口 愛 秀	N T T
〃	菅 野 直 人	KDDI 総合研究所	〃	都 土 内 永 名	N H K 技 研
編集担当	林 崎 俊 彦	N H K ー E S	〃 *	都 土 内 永 名	名城大学
〃	山崎 知 巳	東京大学	〃	永 名 並 野 乘 藤	N H K 大阪
企画担当	深澤 裕 和	T B S テレビ	〃	井 手 川 昭 義	KDDI 総合研究所
〃	高平 嶋 英 昌	電気通信大学	〃	井 手 川 昭 義	東京工業大学
監 事	三 会 新 飯 石 和 猪 大 樺	東芝テック 三菱電機 リア 日本工業大学 N H K 広島 N H K 技 研 日本テレビ 三菱電機 N H K 福岡 サンブリッジグローバル ベンチャーズ	〃	井 手 川 昭 義	東京工業大学
代議員*	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	東京工業大学
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	関西テレビ
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	N H K 仙台
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	南海放送
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	N H K 札幌
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	N H K 技 研
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	湘南工科大学
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	N H K 技 研
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	N H K 技 研
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	N H K 名古屋
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	和歌山大学
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	愛知工業大学
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	KDDI 総合研究所
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	読売テレビ
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	早稲田大学
〃 *	〃 *	〃	〃	井 手 川 昭 義	北海道放送

(2) 学会活性化委員会（年度途中で長期計画検討委員会に統合）

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	今井 亨	N H K	幹 事 員	高阪 洋 一	アストロデザイン
代表幹事	石井 啓 二	N H K	委 員	岩 鼻 幸 男	事務局 長
幹 事	松田 一 朗	東京理科大学			

(3) WebIT 化委員会（年度途中で広報委員会に統合）

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	深澤 知 巳	T B S テレビ	委 員	松田 一 朗	東京理科大学
代表幹事	高 橋 裕 和	電気通信大学			

(4) テストチャート委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	井口 和 久	N H K	委 員	松田 一 朗	東京理科大学
代表幹事	居相 直 彦	N H K	〃	山崎 俊 彦	東京大学
委 員	菅 野 勝	KDDI 総合研究所	〃	岩 鼻 幸 男	事務局 長

(5) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	鶴岡 信 治	三 重 大 学	委 員	森住 俊 美	N T T
代表幹事	高阪 洋 一	アストロデザイ	〃	居合 直 彦	N H K
委 員	松田 一 朗	東京理科大学	〃	菅 野 勝	KDDI 総合研究所

(6) 広報委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	今井 亨 二	N H K	委 員	高橋 裕 樹	電気通信大学
代表幹事	深澤 知 巳	T B S テレビ			

(7) 国際連携委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	深澤 知 巳	T B S テレビ	委 員	石井 啓 二	N H K
代表幹事	高橋 裕 樹	電気通信大学	〃	菅 野 勝	KDDI 総合研究所

(8) 長期計画検討委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	滝嶋 康 弘	KDDI 総合研究所	幹 事	深澤 知 巳	T B S テレビ
代表幹事	石井 啓 二	N H K	委 員	高阪 洋 一	アストロデザイン

(9) 代議員選挙委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	平川 秀 治	日本規格協会理事/ 規格開発センター	委 員	本間 康 文	T B S テレビ
委 員	伊藤 崇 之	N H K - E S	〃	岩 鼻 幸 男	事務局 長

(10) 電気・情報関連学会連絡協議会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員	石井 啓 二	N H K	委 員	松田 一 朗	東京理科大学

(11) フェロー選定委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	今井 亨 二	N H K	委 員	斎藤 恭 一	N H K
副委員長	馬場 登 朗	大阪大 学	〃	永井 川 岳 憲	東京工業大学
幹 事	松田 一 朗	東京理科大学	〃	田井 澤 憲	首都大 学
委 員	会津 昌 夫	リ ア ソ ン	〃	樺 澤 哲 力	湘南工科大学
(代議員)	和泉 智 志	日本テレビ	〃	堀 越 裕 樹	早稲田大学
〃	小室 孝 一	埼玉大 学	〃	渡 辺 直 樹	N H K - E S
(研究委員会)	秋田 純 一	金沢大 学	(フェロー)	清 水 真 一	情報学研究所
〃	木村 宗 弘	長岡技術科学大学	〃	佐 藤 真 一	
〃	石井 紀 彦	N H K			

(12) 名誉会員

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
泉 武 博	小野寺 正	田崎 三 郎	長谷川 伸	村上 仁 己
伊 東 晋 一	金 出 武 雄	谷 岡 健 吉	長谷川 豊 明	森 尾 稔 浩
岩 崎 俊 一	金 子 尚 志	谷 本 正 幸	羽 鳥 光 好	安 田 野 薫
内 池 平 樹	久保田 一 一	永 井 研 二	羽 鳥 好 襄	矢 野 幸 雄
内 田 龍 男	沢 辺 松 一	永 井 研 二	濱 崎 島 博	山 本 英 彦
江 藤 良 純	末 松 安 詳	中 嶋 正 之	原 林 宏	吉 野 武 彦
榎 並 和 雅	関 畑 文 雄	中 村 慶 久	晝 馬 輝 三	Carlos A.Paz de Araújo
大久保 榮 治	高 武 田 康 嗣	中 村 澤 台	吹 抜 敬 彦	Flaherty Joseph.A
奥 田 友 彌	武 竹 村 裕 夫	西 山 博	虫 明 康 人	Om. P. khushu
小 沢 慎 治				

(13) 北海道支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	渡 部 謙 介	北 海 道 放 送	運 営 委 員	森 川 悟	北 海 道 放 送
庶 務 幹 事	村 上 賢 司	日 本 放 送 協 会	〃	加 藤 慎 太 郎	札 幌 テ レ ビ 放 送
〃	横 井 博 士	テ レ ビ 北 海 道	〃	大 鐘 武 雄	北 海 道 大 学
会 計 幹 事	片 野 友 興	北 海 道 文 化 放 送	〃	佐 々 木 正 巳	北 海 道 科 学 大 学
〃	樹 山 英 則	北 海 道 テ レ ビ 放 送	〃	臼 田 昇	総 務 省 北 海 道 総 合 通 信 局
運 営 委 員	藤 井 大 輔	日 本 放 送 協 会			

(14) 東北支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	工 藤 栄 亮	東 北 工 業 大 学	運 営 委 員	塩 谷 達	N H K 仙 台
庶 務 幹 事	金 義 鎮	東 北 学 院 大 学	〃	瀧 田 聡	日 本 大 学
〃	佐 々 木 徳 昭	N H K 仙 台	〃	関 秀 廣	八 戸 工 業 大 学
会 計 幹 事	浦 山 靖 博	宮 城 テ レ ビ 放 送	〃	高 橋 勝 徳	東 日 本 放 送 学
〃	野 地 昭 一	N H K 仙 台	〃	野 本 俊 裕	東 北 工 業 大 学
運 営 委 員	大 宮 恭 行	東 北 イ ン テ ル ジ ョ ン 通 信	〃	原 秀 行	岩 手 朝 日 テ レ ビ
〃	大 加 藤 純 雄	ダ イ モ ン ド パ ー ソ ン ル	〃	藤 掛 英 博	東 北 大 学
〃	栗 木 一 郎	東 北 大 学	〃	藤 村 明	青 森 テ レ ビ
〃	近 藤 直 光	東 北 総 合 通 信 局	〃	星 浦 宗 宏	福 島 テ レ ビ
〃	嵯 峨 信 光	仙 台 放 送	〃	三 浦 宏 敏	N H K 仙 台
〃	佐 藤 夫 諭	秋 田 テ レ ビ	〃	峰 田 之 行	山 形 放 送
〃	塩 入	東 北 大 学	〃	村 岡 裕 明	東 北 大 学

(15) 北陸支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	志 田 晴 康	N H K 福 井	運 営 委 員	坂 本 康 正	金 沢 工 業 大 学
庶 務 幹 事	阿 部 雅 夫	N H K 金 沢	〃	筒 井 康 彰	N T T 西 日 本
〃	吉 高 淳 夫	北 陸 先 端 科 学 技 術 大 学 院 大 学	〃	筒 東 海 村 英 二	福 井 大 学
会 計 幹 事	柳 原 伸 司	富 山 テ レ ビ 放 送	〃	京 佐 伯 則 男	北 陸 放 送
〃	桜 井 博 英	N H K 金 沢	〃	藤 原 伯 則 男	北 日 本 放 送
運 営 委 員	高 松 純 一	富 山 大 学	〃	木 野 滋 雅	N H K 富 山
〃	秋 田 純 一	金 沢 大 学	〃		N H K 金 沢
〃	吉 田 俊 一	福 井 大 学			

(16) 東海支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	新 見 琢 司	N H K 名 古 屋	運 営 委 員	植 中 裕 史	ア イ シ ン 精 機
庶 務 幹 事	丹 羽 浩 樹	N H K 名 古 屋	〃	小 川 玉 樹	東 海 テ レ ビ
〃	鬼 頭 俊 夫	総 務 省 東 海 総 合 通 信 局	〃	木 島 竜 吾	岐 阜 大 学
会 計 幹 事	野 尻 健 二	C B C テ レ ビ	〃	服 部 敏 秋	N H K 名 古 屋
〃	久 米 木 隆 嗣	N H K 名 古 屋	〃	土 屋 正 勝	総 務 省 東 海 総 合 通 信 局
運 営 委 員	青 石 橋 徹	静 岡 大 学	〃	大 塚 鹿 彦	中 京 テ レ ビ
〃	服 部 利 豊	名 古 屋 工 業 大 学	〃	塚 田 敏 彦	愛 知 工 業 大 学
〃	服 部 利 孝	日 本 C A T V 技 術 協 会	〃	都 竹 愛 一	名 城 大 学
〃	八 間 瀬 健	静 岡 第 一 テ レ ビ	〃	鶴 岡 信 郎	三 重 大 学
〃	和 田 隆 二	名 古 屋 大 学	〃	服 田 康 治	テ レ ビ 愛 知
〃		C B C テ レ ビ	〃	村 田 宏 実	名 古 屋 テ レ ビ

(17) 関西支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	相 河 聡	兵庫県立大学	運 営 委 員	新 田 直 子	大阪大学
庶 務 幹 事	森 本 雅 和	兵庫県立大学	〃	井 上 明 彦	シャープ
〃	猪 又 憲 治	三菱電機	〃	高 橋 秀 也	大阪市立大学
会 計 幹 事	澤 利 明	読売テレビ	〃	高 橋 史 昭	総務省
〃	宮 崎 大 介	大阪市立大学	〃	中 島 良 隆	読売テレビ
運 営 委 員	加 地 靖 男	テレビ大阪	〃	並 川 巖 史	関西テレビ
〃	酒 澤 茂 之	大阪工業大学	〃	新 田 威 史	朝日放送
〃	稻 垣 尋 紀	パナソニック	〃	藤 田 智 玄	大阪電通
〃	関 口 正 偉	住友電気工業	〃	龍 井 秀 明	三菱電機
〃	杜 本 伸 一	京都工繊大学	〃	土 井 真 一	NHK大阪
〃	宮 本 繁	和歌山大学	〃	山 本 真 一	兵庫県立大学
〃	松 井	毎日放送			

(18) 中国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	藪 田 英 雄	中国放送	運 営 委 員	佐 々 木 輝 彦	テレビ新広島
庶 務 幹 事	宮 尾 純 一	広島大学	〃	高 橋 賢 二	広島市立大学
〃	山 野 浩 司	NHK広島	〃	林 田 秋 昭	山口朝日放送
会 計 幹 事	東 田 昭 至	広島テレビ	〃	佐 原 浩 二	山陽放送
〃	吉 田 英 昭	NHK広島	〃	小 平 俊 也	広島ホームテレビ
運 営 委 員	高 尾 忍 一	山陰中央テレビ放送	〃	南 村 憲 明	広島国際学院大学
〃	佐 藤 栄 一	中国総合通信局	〃	中 村 正 紀	テレビ山口
〃	高 橋 秀 明	日本海テレビ放送	〃	飯 塚 正 人	NHK広島
〃	立 川 一 彦	NHKテクノロジーズ	〃	恵 良 勝 治	山口放送
〃	尾 関 孝 史	福 山 大 学	〃	真 田 浩 行	岡山放送
〃	澤 見 英 男	岡山理科大学	〃	秋 山 長 夫	山陰放送

(19) 四国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	河 端 英 一	NHK松山	運 営 委 員	島 矢 勝 久	あいテレビ
庶 務 幹 事	河 野 一 勝	NHK松山	〃	今 西 勝 規	愛媛朝日テレビ
〃	菅 原 淳 司	あいテレビ	〃	山 田 祐 介	高知放送
会 計 幹 事	横 山 隆 一	NHK松山	〃	上 田 正 哉	テレビ高知
会 計 監 査	堀 内 和 広	総務省四国総合通信局	〃	山 下 和 俊	高知さんさんテレビ
運 営 委 員	岡 本 好 弘	愛媛大学	〃	鳴 滝 智 明	四国放送
〃	乗 松 義 弘	南海放送	〃	岩 井 芳 敏	西日本放送
〃	野 中 宏 次	テレビ愛媛			

(20) 九州支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	赤 崎 伸 一	RKB毎日放送	運 営 委 員	野 久 仁 志	NTT西日本
庶 務 幹 事	松 岡 剛 一	九州産業大学	〃	大 川 祐 二	NHK福岡
〃	具 志 堅 淳	NHK福岡	〃	大 渡 辺 孝 司	九州総合通信局
会 計 幹 事	松 崎 浩 一	KBC九州朝日放送	〃	上 田 孝 裕	熊本大学
〃	松 本 勝 宏	NHK福岡	〃	山 室 正 孝	RKK熊本放送
運 営 委 員	井 上 光 平	九州大学	〃	藤 本 正 孝	長崎大学
〃	芹 川 聖 一	九州工業大学	〃	松 崎 文 功	NBC長崎放送
〃	富 田 良 彦	テレビ西日本	〃	渡 邊 睦 陸	鹿児島大学
〃	毛 利 元 夫	FBS福岡放送	〃	小 川 重 訓	MBC南日本放送
〃	岡 村 昇	TVQ九州放送	〃	神 屋 伸 敏	MRT宮崎放送

(21) 技術委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	伊 東 晋	東京理科大学	委 員	野 中 雄 一	日立
幹事	亀 山 渉	早稲田大学	〃	篠 秋 弘	パナソニック
〃	居 相 直 彦	N H K	〃	中原 純 一	金沢大学
特別理事	菅 野 勝	KDDI総合研究所	〃	木 村 宗 紀	長岡技術科学大学
委 員	馬 場 口 登 朗	大阪大学	〃	石 井 藤 井	N H K
〃	松 田 一 俊	東京理科大学	〃	斎 永 井 川	N H K
〃	森 山 崎 俊 彦	N T T	〃	永 田 大 男	東京工業大学
〃	柳 原 広 昌	東京大学	〃	向 井 澤 信	東京都立大学
〃	佐 藤 真 一	KDDI総合研究所	〃	樺 澤 哲 力	東京都市大学
〃	大 口 修 義	国立情報学研究所	〃	堀 越 辺	サンブリッジグローバルベンチャーズ
〃	福 本 正	T B S テ レ ビ	〃	渡 辺	湘南工科大学
		N E C	〃		早稲田大学

<研究委員会>

(22) 情報センシング研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	秋 田 純 一	金沢大学	委 員	杉 山 行 信	浜松ホトニクス
副委員長	池 辺 将 之	北海道大学	〃	関 根 信 寛	キヤノン
〃	廣 瀬 裕 孝	パナソニック	〃	近 藤 久 征	オリンパス
幹 事	小 室 和 弘	埼玉大学	〃	樽 木 久 良	東 芝
〃	下 村 景 一 郎	立命館大学	〃	船 津 立 平	N H K
〃	香 川 嵩 人	静岡岡大学	〃	足 立 高 俊	オリンパス
〃	徳 田 理 人	東京工業大学	〃	大 藤 澤 靖 久	Gpixel Japan
〃	黒 田 成 亨	東北大学	〃	栃 西 山	三菱電機
〃	為 村 雄 一 郎	N H K	〃		ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	山 下 健 夫	T S M C	〃		ニ コ ン
委 員	前 田 健 夫	Imaging Device Technologies			

(23) メディア工学研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	田 川 憲 男	首都大学東京	委 員	曾 我 麻 佐 子	龍 谷 大 学
幹 事	新 井 啓 正	N T T	〃	谷 沢 昭 行	東 芝
〃	村 松 正 吾	新 潟 大 学	〃	東 海 彰 吾	福 井 大 学
〃	広 明 敏 彦	N E C	〃	入 部 百 合 絵	愛 知 県 立 大 学
〃	望 月 貴 裕	N H K	〃	平 野 晃 昭	関 東 学 院 大 学
委 員	奥 田 正 浩	北九州市立大学	〃	石 井 大 伸	富 士 通 研 究 所
〃	篠 田 一 昌	宇 都 宮 大 学	〃	八 木 山 美 和	東 京 都 市 大 学
〃	多 田 義 満	近 畿 大 学	〃	片 山 野 文 子	N H K
〃	青 木 博 康	慶 應 義 塾 大 学	〃	山 野 文 正	コ ニ カ ミ ノ ル タ
〃	根 岸 博 康	三 菱 電 機	顧 問	春 日 塚 佳 仁	作 新 学 院 大 学
〃	Mehrdad Panahpour Tehran	名古屋大学	〃	大 外 貴 上	鹿 児 島 大 学
〃	伊 藤 康 一	東北大学	〃	村 家 倉 田	龍 谷 大 学
〃	田 良 島 周 平	N T T	〃	吉 村 上 俊 和	首 都 大 学 東 京
〃	城 村 堅 圭	ソニーセミコンダクタソリューションズ	〃		東 京 工 芸 大 学
〃	河 村 圭 修	KDDI総合研究所	〃		福 井 大 学
〃	渡 邊 修 弘	拓 殖 大 学	〃		愛 知 県 立 大 学
〃	小 川 貴 弘	北海道大学	〃	長 谷 山 美 紀	北 海 道 大 学

(24) マルチメディアストレージ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	石井 紀彦	N H K	委員	多田 行伸	日立LGデータストレージ
幹事	武者 敦史	富士フイルム	〃	関口 通	NECネットエスアイ
〃	島田 昌信	三菱電機	〃	大竹 充光	横浜国立大学
〃	船橋 正彦	N H K	〃	大田 中輝	九州大学
〃	文 仙正	福岡大学			

(25) 情報ディスプレイ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	木村 宗弘	長岡技術科学大学	委員	小牧 俊裕	パナソニック
副委員長	都築 敏昌	N H K	〃	小佐藤 真一	ジャパンディスプレイ
幹事	樋口 北裕	物質・材料研究機構	〃	志賀 智貴	電気通信大学
〃	山中 村篤	J O L E D	〃	清水 水央	N H K
〃	石鍋 隆志	静岡大学	〃	下平 貴美	静岡大学
〃	山鍋 雅浩	東京工業大学	〃	白松 直樹	ブル学院大学
幹事補佐	吉田 茂人	シャープ	〃	鈴木 幸治	東芝
〃	奥山 健太郎	ジャパンディスプレイ	〃	鈴木 睦成	日立
〃	薄谷 武順	N H K	〃	鈴陶 成史	メルク
委員	藤崎 好哉	高知大学	〃	関谷 秀	徳島大学
〃	別井 圭一	N H K	〃	染平 和泰	八戸工業大学
〃	奥田 宜嵩	三菱電機	〃	高津 橋	三菱電機
〃	足立 昌哉	N H K	〃	任村 静	工学院大学
〃	沼尾 弘次	ジャパンディスプレイ	〃	富井 省平	山形大学
〃	藤掛 英史	N H K	〃	苗瀬 章一	鳥取大学
〃	小澤 敏啓	東北大学	〃	根西 陽一郎	三菱電機
〃	石井 二剛	静岡大学	〃	畑中 義拓	静岡大学
〃	伊藤 伸樹	N H K	〃	浜口 芳一	大日本印刷
〃	茨木 文四郎	産業技術総合研究所	〃	平野 昇一	N H K
〃	上村 瑞芳	神奈川工科大学	〃	福田 勉	新神戸電機
〃	後沢 平樹	ノリタケカンパニーリミテド	〃	古橋 隆幸	金沢工業大学
〃	内池 龍男	N H K	〃	松本 明義	ジャパンディスプレイ
〃	大沢 通光	大山商事	〃	御子柴 茂生	NECビューテクノロジー
〃	大岡 繁一郎	仙台高等専門学校	〃	三宮 哲由紀	金沢工業大学
〃	奥村 治彦	工業所有権協力センター	〃	村上 上山	尚美学園大学
〃	奥栗 康生	鳥取大学	〃	本山 口隆	東北工業大学
〃	小面 秀典	名城大学	〃	山本 敏博	N H K
〃	蒲窪 悟郎	ニッパツ	〃	山本 裕夫	N H K
〃	栗田 市郎	ダイリサーチマーテック	〃	分石 文蔵	オプト・システム
〃	小林 洋志	東海大学	顧問	小平 健昭	N H K
〃		凸版印刷	〃	堀島 博雄	ジャパンディスプレイ
〃		成蹊大学			
〃		N H K			
〃		山口東京理科大学			
〃		鳥取大学			

(26) 放送技術研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	齋藤恭一	N H K	(無線光)	岡田実	奈良先端科学技術大学院大学
副委員長	村田英一	京都大学	〃	齊藤幸一	千葉大学
〃	深澤知巳	T B S テレビ	〃	塩沢隆弘	香川高等専門学校
幹事	神原浩平	N H K	〃	関智泰	日本大学
〃	鈴木高幸	テレビ朝日	〃	伴居裕次	住友電気工業
〃	和泉田智志	日本テレビ	〃	武田中	日立国際電気
〃	福本正幹	N E C	〃	田松高卓	佐賀大学
〃	大水本哲	パナソニック	〃	宮本野真由子	古河電気工業
〃	〃	東京工業大学	〃	和泉田智	東芝インフラシステムズ
委員	塩川茂樹	神奈川工科大学	〃	渡辺滋	日本テレビ
(放送・通信方式)	杉山賢二	成蹊大学	(放送現業)	甲斐創裕	日本電業工
〃	竹内真祥	N H K	〃	小島敏	日本テレビ
〃	田中次弘	N H K	〃	小斉藤俊一	フジテレビ
〃	筒井啓俊	北海道大学	〃	小津林満	テレビ東京
〃	濱住美純	東京工業高等専門学校	〃	並田川	名古屋テレビ
〃	森住俊	N T T	〃	享	N H K
〃	湯川純	三菱電機	〃	〃	関西テレビ
〃	〃	〃	〃	〃	T B S テレビ

(27) 映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	向井信彦	東京都市大学	委員	竹内幸一	電気通信大学
副委員長	名手久貴	東京工芸大学	〃	田中敏孝	名城大学
幹事	小林裕幸	千葉大学	〃	永江孝規	東京工芸大学
〃	杉本志織	N T T	〃	中山佳祐	朝日放送
〃	田中賢一	長崎総合科学大学	〃	藤井祐正	テレビ東京
〃	盛岡寛史	N H K	〃	林樹雄	ウプサラ大学
〃	Roberto Lopez-Gullier	情報通信研究機構	〃	檜山茂秀	多摩美術大学
委員	秋山雅和	IMAGICA FORCE	〃	三ッ峰信	N H K
〃	小黒久史	凸版印刷	顧問	小杉藤	東京都市大学
〃	工藤芳明	大日本印刷	〃	佐藤癸夫	湘南工科大学
〃	久保尋之	奈良先端科学技術大学院大学	〃	新高谷	東邦大学
〃	白石路雄	東邦大学	〃	高橋市郎	東京電機大学
〃	高梨伸彰	N E C	〃	吉川浩	日本大学

(28) 立体映像技術研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	堀越力	湘南工科大学	委員	坂巻照夫	大日本印刷
幹事	上原伸一	東芝	〃	佐藤甲信	湘南工科大学
〃	氏家弘博	産業技術総合研究所	〃	志水秀也	N T T
〃	圓藤知健	長岡技術科学大学	〃	高橋千正	大阪市立大学
〃	山本健詞	情報通信研究機構	〃	谷本幸	アストロデザイン
〃	掛谷英紀	筑波大学	〃	谷千正	名古屋大学
〃	小池崇史	法政大学	〃	新津田豊彦	シヤープ
〃	陶山史朗	徳島大学	〃	畑田	東京電機大学
〃	高木康博	東京農工大学	〃	濱岸	東京眼鏡専門学校
〃	高田英伸	N T T	〃	宮沢篤正	セイコーエプソン
〃	高梨邦彦	N E C	〃	結城昭一	東京工芸大学
〃	高野俊彰	東京都立産業技術高等専門学校	〃	湯山	三菱電機
〃	藤井智之郎	名古屋大学	〃	吉本	宇都宮大学
〃	三科藤員	N H K	〃	奥井捷誠	日本大学
委員	岩上平正	凸版印刷	顧問	〃	千葉大学
〃	柿本憲	神奈川工科大学	〃	〃	情報通信研究機構
〃	〃	日本 S G I	〃	〃	〃

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 幹事 〃	永井 岳大 磯貝 愛樹 高橋 正樹	東京工業大学 NTT NHK	〃 〃	福田 一帆 小濱 剛	工学院大学 近畿大学

役名		氏名		勤務先		役名		氏名		勤務先	
委員長 幹事 委員	委員長	樺澤哲一	サンブリッジグローバルバンチャーズ	委員	谷岡健吉	カイル・ロビンソン	スウェーデンの科学者				
	幹事	山田宏明	法政大学	"	中村裕一郎	イブ・バウアー	ドイツの科学者				
	"	都築五正	フレッヂテクノロジー	"	野長瀬裕二	山形大	工学部				
	"	松井宏夫	サーバンヘルスケア	"	原良千尋	京都大	工学部				
	"	善本哲夫	科学技術振興機構	"	末林泰仁	N T T	A T				
	委員	難波和秀	立命館大学	"	平田貞修	芝浦工業大	工学部				
	"	石井純学	技術B P経営研究所	"	松本川秀樹	日本ケープラボ					
	"	江藤雄一	A Z C A	"	安山本忠孝	パナソニック					
	"	榎田剛史	イチユ一	"	山横Richard B. Dasher	IChiKa総合研究所					
	"	長内厚子	岡田工事部	"	加納剛太	毎日放送					
	"	加賀津貴男	早稲田大学	顧問	倉重光	Stanford University					
	"	陰山孔正	大阪大学	"	富沢治真	高知工科大学					
	"	春日誠助	獨協大学	"	小川紘清	高知工科大学					
	"	片山盛之助	作新学院大学	"		福知山公立大					
	"	川口祐司	住友電気工業	特別委員		東京大					
	"	鈴木則子	盛之助	"		東中央大					
"	田路	次世代メディア研究所	"								
"		法政大学									

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	渡辺 裕	早稲田大学	委員	田邊 智	大阪産業大学
幹事	角田 貢	日本体育大学	〃	筒口 正	崇城大学
〃	北原 格	筑波大学	〃	中谷川 純	エクオスリサーチ
〃	三上 弾	N T	〃	長谷川 純	東京大学
〃	三ツ峰 秀良	N H K	〃	誉田 一彰	早稲田大学
委員	渡内 亮	KDDI総合研究所	〃	前田 充	キヤノン
〃	小沢 慎治	東海大学	〃	宮崎 慎也	中京大学
〃	小鹿 雅之	慶應義塾大学	〃	宮地 力	東京大学
〃	斎藤 英雄	慶應義塾大学	〃	村上 和人	愛知県立大学
〃	高橋 佳三	びわこ成蹊スポーツ大学	〃	山田 雅人	中京大学
〃	瀧 剛志	中京大学	〃	吉川 文	びわこ成蹊スポーツ大学
				和田 智仁	鹿屋体育大学

(32) 2019年年次大会実行委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員 長事	熊澤逸夫	東京工業大学	委 員	津田貴生	N H K
幹 事	居合直彦	N H K	〃	神原浩平	N H K
〃	石井啓二	N H K	〃	高橋正樹	N H K
〃	深澤知巳	T B S テレビ	〃	望月貴裕	N H K
委 員	高阪洋一	アストロデザイン	〃	根岸博康	三菱電機
〃	為村成亨	N H K	〃	杉本博志	N T T
〃	馬場雅彦	東芝	〃	石綿宏	フレッジテクノロジー
〃	船橋信樹	N H K	〃	陶山史朗	徳島大学
〃	塩川茂樹	神奈川工科大学	〃	高田英明	N T T
〃	宮野真由子	東芝インフラシステムズ	〃	三ッ峰秀樹	N H K

(33) 2019年冬季大会実行委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員 長事	今井亨	N H K	委 員	塩沢隆広	香川高等専門学校
幹 事	菅野勝	KDDI 総合研究所	〃	森隆宏	T B S テレビ
〃	松田一朗	東京理科大学	〃	鈴村高幸	テレビ朝日
〃	高橋裕樹	電気通信大学	〃	磯貝愛平	N T T
〃	森住俊美	N T T	〃	田良島周昭	N T T
委 員	山崎俊彦	東京大学	〃	谷沢昭行	東芝
〃	為村成亨	N H K	〃	盛岡寛史	N H K
〃	薄井武順	N H K	〃	石綿宏紀	フレッジテクノロジー
〃	武井敦史	富士フイルム	〃	掛谷英紀	筑波大学
〃	森住俊美	N T T	〃	渡邊良亮	KDDI 総合研究所

(34) 編集委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
編集長 副委員長 〃 編集幹事 (企画担当)	八木伸行人	東京都市大学	編集幹事 (企画担当)	樋口海里	総務省
	林直俊	NHK-ES		→園部	総務省
	山崎沙彦	東京大学		樋口晴瑠	東京工業大学
	相田原	東京工科大学		久方下澤	大阪大学
	相原政直	NHK		間峯矢山	三菱電機大学
	井ノ上田	KDDI総合研究所		山田紀洋	東京大学
	内越富夫	TBSテレビ		山田邦大	JVCケンウッド
	春日藤康直	大阪電気通信大学		横山部	立
	加藤合原	NHK		渡部	埼玉工業大学
	河倉掛卓	富士フイルム			
	小池野島	東芝映像ソリューション			
	小笹井川	NHK			
	笹木幸信	法政大学			
	佐々木厚憲	NHK			
	志白取条	フジテレビ			
	高中岡泉	パナソニック			
	寺島沼本	奈良先端大学院大			
	中長橋	NHK			
		NHK			
		千葉大学			
		フアーウェイ			
		シヤープ			
		拓殖大			
		NHK			
		大阪大学			
		ソニ			
		電気通信大学			
			(海外文献部門)		
			部門委員長	永井 賢史	電気通信大学
			部門副委員長	小森田 豊	KDDI総合研究所
			部門委員	大折 賢俊	東芝インフラシステムズ
				杉原 翔昌	NHK
				西辻 太平	TBSテレビ
				三沢 崇龍	首都大学
				本村 天玄	三菱電機
				涌波 光喜	NHK
			(ニュース部門)		
			部門委員長	中野 信一	日本テレビ
			部門副委員長	浜田 宏一	日NHK
			部門委員	池谷 健佑	NHK
				新保 豪平	NHK
				三原 翔一郎	KDDI総合研究所

(35) 論文委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 アドバイザー 幹事員 委員	篠田浩一 八木伸行 内藤俊彦 山崎吉郎 瀧口彰規 藤井俊雅	東京工業大学 東京都市大学 KDDI総合研究所 東京大学 NHK 名古屋大学 NHK	(英語論文編集委員会) 委員長 副委員長 委員	篠田浩一 内藤雅将 佐野山将 飯山一典 伊丹文淳 井手上弘 江上紀郎 太田人二 小川也之 掛谷樹之 甲藤伸子 上倉幸紀 川倉登之 酒澤茂 清水直樹 高村佳伸 外村直子 新橋真美 長谷山智 馬場科導 三濃英彦 美村伸一 村田昌彦 八木俊彦 柳原 山崎 Nam Ik Cho Alexamder G. Hauptmann Tae Kyoon Kim Benoit Huet Chong-Wah Ngo Antonio Ortega Jong-Il Park Georges Quenot Stefan Rueger Ming-Hsuan Yang	東京工業大学 KDDI総合研究所 NHK 京都大学 東京理科大学 名古屋大学 近畿大学 奈良先端大学院大学 北海道大学 筑波大学 早稲田大学 東京工芸大学 静岡大学 NHK 大阪工業大学 NHK-EST NTT 龍谷大学 大阪大学 KDDI総合研究所 北海道大学 大阪大学 NHK 京都大学 京都大学 東京都市大学 KDDI総合研究所 東京大学 Seoul National University Carnegie Mellon University ETRI Eurecom City University of Hong Kong University of Southern California Hanyang University Laboratory of Informatics of Grenoble The Open University University of California, Merced
(和文論文編集委員会) 委員長 副委員長 委員	篠田浩一 瀧口吉郎 藤井俊彰 青木啓史 池辺将之 石井利樹 石鍋隆宏 市橋保之 川本潤一郎 久保尋之 河本健一郎 京田文人 齊藤一幸 下ノ村和弘 高橋桂太 田中賢一 外山史郎 長尾慈郎 三上弾 三ッ峰秀樹 室井哲彦 吉森聖貴	東京工業大学 NHK 名古屋大学 NEC 北海道大学 日立 東北大学 情報通信研究機構 NHK 奈良先端大学院大学 川崎医療福祉大学 シリコンスタジオ 千葉大学 立命館大学 名古屋大学 長崎総合科学大学 宇都宮大学 NTT NTT NHK NHK 日本文理大学			

(36) 選奨委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	熊澤逸夫	東京工業大学	委員	柳原昌一	KDDI総合研究所
代表幹事	石井啓伸	NHK	〃	秋田純	金沢大学
〃	八木伸一	東京都市大学	〃	木村弘彦	長岡技術科学大学
〃	松田朗	東京理科大学	〃	石井恭一	NHK
〃	高阪洋一	アストロデザイン	〃	斎藤恭一	NHK
〃	森住俊美	NHTT	〃	永井大男	東京工業大学
〃	居相直彦	NHK	〃	田川憲信	首都大学
〃	菅野勝人	KDDI総合研究所	〃	向井哲力	東京都市大学
〃	林直俊	NHK-ES	〃	樺澤越	サンブリッジグローバルベンチャーズ
〃	山崎俊彦	東京大学	〃	堀越	湘南工科大学
〃	深澤知巳	TBSテレビ	〃	渡辺	早稲田大学
〃	高橋裕樹	電気通信大学			

(37) 「技術振興賞」進歩開発賞選考専門部会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長	柳原昌一	KDDI総合研究所	委員	田川憲男	首都大学
代表幹事	居合直彦	NHK	〃	向井澤哲	東京都市大学
幹事	石井啓二	NHK	〃	樺澤越	サンブリッジグローバルベンチャーズ
〃	松田朗文	東京理科大学	〃	堀渡力	湘南工科大学
委員	神田菊巳	NHK	〃	渡森宏	早稲田大学
〃	深澤知	TBSテレビ	〃	小島裕	TBSテレビ
〃	菅野勝樹	KDDI総合研究所	〃	河奥誠	フジテレビ
〃	高橋裕	電気通信大学	〃	中山一	ソニー
〃	関根寛	キヤノン	〃	竹中敏	パイオニア
〃	山口浩雅	東京工業大学	〃	相羽英	NEC
〃	石井紀彦	NHK	〃	大西浩	JVCケンウッド
〃	鈴村高幸	テレビ朝日	〃	佐藤之	パナソニック
〃	関口頌一	NHK	〃	宮崎史	日本テレビ
〃	田中高行	佐賀大学	〃	齊藤	テレビ朝日
〃	永井岳大	東京工業大学	〃		テレビ東京

(38) 「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長	深澤知巳	TBSテレビ	委員	具志堅	NHK福岡
代表幹事	藤井祐佳	テレビ東京	〃	澤利	讀賣テレビ
幹事	森住俊美	NHTT	〃	大鹿明	中京テレビ
〃	斉藤一彦	テレビ東京	〃	塩飽武志	朝日放送テレビ
委員	山崎俊裕	東京大学	〃	新井悟	名古屋テレビ
〃	高橋生	電気通信大学	〃	山田児	毎日放送
〃	津田樹	NHK	〃	山下海	RKB毎日放送
〃	藤原徹	日本テレビ	〃	松野路	テレビ大阪
〃	藤田義宏	テレビ朝日	〃	平川敏	テレビ愛知
〃	森享雄	TBSテレビ	〃	水川毅	関西テレビ
〃	鳥飼一裕	テレビ東京	〃	小川樹	東海テレビ
〃	小島敏	フジテレビ	〃	武居一	日立国際電気
〃	土井秀行	NHK大阪	〃	宮賢	NEC

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先	
部長	居 相 直 彦	N H K	委 員	木 村 宗 弘	長岡技術科学大学	
代表幹事	菅 野 勝 勝	K D D I 総合研究所		〃	石 井 紀 彦	N H K
幹 事	菅 井 啓 二	N H K		〃	斎 藤 恭 一	N H K
〃	松 田 朗 一	東 京 理 科 大 学		〃	永 井 岳 大	東 京 工 業 大 学
委 員	高 阪 一 洋	アストロデザイン		〃	田 川 憲 男	東 京 都 立 大 学
〃	林 直 人	NHKエンジニアリングサービス		〃	向 井 彦 信	東 京 都 市 大 学
〃	山 崎 俊 彦	東 京 大 学		〃	樺 澤 哲 夫	サンブリッジグローバルベンチャーズ
〃	深 澤 知 巳	T B S テ レ ビ	〃	堀 越 力	湘 南 工 科 大 学	
〃	池 辺 将 之	北 海 道 大 学	〃	渡 辺 裕	早 稲 田 大 学	

役名	功・業・論・鈴
織聰希己慎夫志人行彦也文樹裕郎隆久哉司一健博裕太昌己啓彦美大彰子男徹志豊史信一一郎彰整規	
沙政直富康直智邦卓崇英敏寿清幸信厚憲丈貴悠宏直晴瑠以紀洋邦大賢宏浩吉俊雅	
田原上田後日藤合原掛池野島井川木水木取条岡泉島沼本口方下澤田肩田山部井田野田田口井藤野	
相相泉井内越春加河河倉小神小笹 ^々 佐志白高中寺戸中長橋園樋久間峯矢山山横渡永小中浜篠瀧藤内佐	
律郎浩夫文臣雄誠彦博一治道夫秀人治志郎淳則明三明豐明實彥行弘郎吉信一郎一治整輔次誠治砂一雄人	
好一昌孝哲春精年圭丈吉幸正一啓文正正一利博篤昌祥康三健行愛信義英台秀亜修哲和里	
鳥山川津木田野丹藤原津野塚柳子倉前取野池柴林宮田浦本嶋崎岡口竹西葉藤須澤川井本橋上谷	
羽湯吉会青池磯伊伊上梅浦大片金上川香岸小小小澤柴杉関関滝田谷谷都寺出内中西長平藤松三村	
役名	功・業・論・鈴
逸信仲啓一洋俊直直俊知裕和英広真正雄弘純宗紀岳憲信謙栄晴眞英英伸敏崇泰和恭	
夫治亨登行二朗一美彦勝人彦巳樹樹俊昌晋一修義一樹一弘彦一大男彦哲力裕介亮康次聡輔一一則之宏雅	
氏澤岡井口木井田阪住相野崎澤橋嶋原東藤口本中原田村井藤井川井澤越辺部藤田浦河田端崎高藤藤並	
熊鶴今馬八石松高森居菅林山深高平三柳伊佐大福野篠秋木石斉永田向樺堀渡渡工志宮相藪河赤尾伊伊榎場	
役名	功・業・論・鈴
功・業・論・鈴	